



Sun™ Management Center 3.6.1 Version 2 アドオンソフトウェア 追補マニュアル

Sun SPARC® Enterprise
M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-1934-10
2007 年 5 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、本書に記載されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しており、これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許および他の知的財産法と国際協定によって保護されています。これらの製品、技術、および本書における米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社の知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに関連する製品、技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社および米国 Sun Microsystems 社または適用されるライセンサーがある場合はそのライセンサーの書面による事前の許可なく、本製品または技術、および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、関連する製品または技術について、明示的であるか黙示的であるかを問わず、なんらの権利または認可を与えるものではありません。また、本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社、またはそのあらゆる関係団体における、いかなる種類の責任も表明するものではなく、かつ一切の責任を含みません。

本書ならびに本書に記載される製品および技術は、ソフトウェアおよびフォント技術を含め、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社、あるいはその両方が、サプライヤから著作権または使用許諾、あるいはその両方を受けた第三者の知的財産を含む場合があります。

GPL および LGPL の条項により、GPL または LGPL によって管理されるソースコードは、規定に沿って、エンドユーザーの要求に応じて利用可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この製品には第三者によって開発された成果物が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun Ray, AnswerBook2, docs.sun.com, OpenBoot, Sun Fire, および Sun Management Center は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われえないものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Management Center 3.6.1 Version 2 Add-On Software Supplement
Part No: 819-6542-10
Revision A



目次

はじめに xv

1. 概要 1

Sun Management Center アドオンソフトウェアについて 1

プラットフォームとハードウェアドメインの区別 4

▼ プラットフォームの「詳細」ウィンドウを区別する 4

▼ ハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウを区別する 5

参考: このマニュアルで使用している用語 5

参考: モジュール 6

2. インストールとセットアップ 7

アドオンソフトウェアのインストールについて 8

要件について 9

ネットワークポートの構成について 9

サービスプロセッサのフェイルオーバーについて 10

検出マネージャーの使用について 10

インストールとセットアップの手順について 10

インストール作業の概要 12

Sun Management Center コアソフトウェアのインストール 12

▼ Sun Management Center 3.6.1 のコアソフトウェアをインストールする 13

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の新しい Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールとセットアップ 13

サーバーマシンのサーバーレイヤー 13

ワークステーションまたはネットワークのコンソールレイヤーと基本ヘルプ 14

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーにプリインストールされたプラットフォームエージェントレイヤー 14

ホストとインストールするレイヤー 14

Sun Management Center インストールウィザードを使用したアドオンソフトウェアのインストール 16

- ▼ Sun Management Center インストールウィザードを使用してアドオンソフトウェアをインストールする 16

Sun Management Center セットアップウィザードを使用したアドオンソフトウェアのセットアップ 17

- ▼ サーバーマシンでアドオンソフトウェアをセットアップする 18

- ▼ サービスプロセッサでアドオンソフトウェアをセットアップする 19

セキュリティアクセスのセットアップ 19

- ▼ Sun Management Center のデフォルトのアクセス権をセットアップする 20

- ▼ プラットフォーム表示とドメイン表示の管理グループをセットアップする 20

- ▼ サービスプロセッサで権限をセットアップする 21

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動 21

- ▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する 22

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了 23

- ▼ サーバーとエージェントを停止する 23

- ▼ コンソールを終了する 24

セットアップパラメータの再構成 25

- ▼ セットアップを再実行する 25

- ▼ プラットフォーム管理モジュールを再ロードする 27

CLI によるソフトウェアのアンインストール 28

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 28

▼ アドオンソフトウェアだけをアンインストールする 30

参考: インストールとセットアップのログファイル 32

参考: setsunmc と showsunmc のマニュアルページ 32

setsunmc 33

showsunmc 35

参考: SPARC Enterprise サーバー用アドオンソフトウェアに固有のパッケージ
38

参考: ネットワークポートの構成 39

参考: アクセス権用管理グループ 40

Sun Management Center のデフォルトの管理グループ 40

3. プラットフォーム管理 41

プラットフォーム管理モジュールについて 42

プラットフォーム管理モジュールの更新 42

プラットフォーム管理モジュールへのアクセス 43

▼ プラットフォーム管理モジュールにアクセスする 43

プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行 44

サーバーハードウェアのセットアップ 44

▼ 簡単なドメインを構築する 45

サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、および作業変
更 46

▼ ドメインから XSB を削除する 47

▼ ドメインに XSB を追加する 47

▼ ドメインを再構成する 48

▼ XSB を移動する 51

▼ 入出力ポートの電源を切断する 51

サーバーハードウェアの操作と保守 52

▼ ドメインの電源を入れる 52

▼ ドメインをリセットする 53

▼ ドメインの電源を切る	53
FRU の交換	53
▼ システムボードを交換する	54
▼ システムボードを削除する	55
▼ システムボードを追加する	55
参考: プラットフォーム管理のプロパティーと作業	56
システム	57
プラットフォーム表示のテーブル	59
CPU/メモリーユニットボード	59
CPU モジュール	60
メモリーボード	61
メモリー DIMM	62
入出力ユニットボード	63
PCI スロット	64
システムボード	65
拡張システムボード	67
論理システムボード	69
システムコンポーネント	70
環境監視	71
ドメイン	71
外部入出力	73
外部入出力拡張ユニットシャーシ	73
入出力ポート	75
リンクカード	76
外部入出力拡張ユニットの電源装置とファン	77
外部入出力拡張ユニットセンサー	78
ドメイン表示	79
ドメイン情報	79

システムボード	81
拡張システムボード	81
論理システムボード	82
「ハードウェア」タブについて	83
物理表示	83
論理表示	84
「ハードウェア」タブの各表示へのアクセス	84
▼ 物理表示にアクセスする	84
▼ 論理表示にアクセスする	84
4. ドメイン管理	87
ドメイン管理モジュールについて	87
ドメイン管理モジュールへのアクセス	88
▼ ドメイン管理モジュールにアクセスする	88
参考: ドメイン管理のプロパティ	89
システム	89
論理システムボード	90
PCI カード	90
プロセッサ	91
メモリコントローラ	92
ディスクデバイス	93
テープデバイス	94
ネットワークインタフェース	94
5. ドメインの動的再構成	97
ドメイン DR 操作を行う前に	97
DR モジュールについて	97
ドメイン DR 操作について	98
ドメイン DR 操作の実行	98

- ▼ PCI カードスロットを PCI バスに接続する 98
- ▼ 入出力/デバイスの DR コマンドの状態を表示する 99
- 参考: 入出力カード/デバイステーブルのメニューオプション 99
- 参考: ドメインの動的再構成のプロパティ 99
- 接続点: 入出力カードとデバイス 99

6. アラーム規則 101

アラーム規則について 102

参考: プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則 102

エラー状態規則 (rErrorStatus) 102

LED 状態規則 (rLEDState) 103

テスト状態規則 (rTestState) 104

ドメイン状態規則 (rDomainStatus) 105

有効な状態規則 (rValidStatus) 105

外部入出力拡張ユニット LED 状態規則 (rIoBoxLEDState) 106

リンクカード LED 状態規則 (rLinkCardLEDState) 107

取り外し可能 LED 規則 (rOKtoRemoveLED) 107

外部入出力拡張ユニットセンサー規則 (rIoBoxSensor) 108

参考: ドメイン管理モジュールのアラーム規則 109

CPU 状態規則 (oplCPUStatus) 109

状態チェック規則 (oplStateCheck) 110

ディスクエラー数規則 (oplDskErrCnt) 111

テープエラー数規則 (oplTpeErrCnt) 111

図目次

図 1-1	プラットフォームとドメインの管理表示	3
図 1-2	プラットフォームエージェントを使用した SPARC Enterprise Server のサービスプロセスへのアクセス	4
図 2-1	Sun Management Center のサーバー、コンソール、およびサーバードメインのインストール作業のフロー	12

表目次

表 1-1	Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのモジュール	6
表 2-1	インストール、セットアップ、アンインストール、および更新の手順	11
表 2-2	ホストとインストールするレイヤー	15
表 2-3	Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用 Sun Management Center のパッケージ	38
表 2-4	Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス	39
表 2-5	Sun Management Center のデフォルトの管理グループ	40
表 3-1	プラットフォーム管理: システムテーブル	58
表 3-2	プラットフォーム管理: CMU ボードテーブル	59
表 3-3	プラットフォーム管理: CMU ボードテーブルのポップアップメニュー	60
表 3-4	プラットフォーム管理: CPU モジュールテーブル	60
表 3-5	プラットフォーム管理: メモリーボードテーブル	61
表 3-6	プラットフォーム管理: メモリー DIMM テーブル	62
表 3-7	プラットフォーム管理: IOU ボードテーブル	63
表 3-8	プラットフォーム管理: IOU ボードテーブルのポップアップメニュー	64
表 3-9	プラットフォーム管理: PCI スロットテーブル	64
表 3-10	プラットフォーム管理: システムボードテーブル	65
表 3-11	プラットフォーム管理: システムボードテーブルのポップアップメニュー	66
表 3-12	プラットフォーム管理: XSB テーブル	67
表 3-13	プラットフォーム管理: XSB テーブルのポップアップメニュー	68
表 3-14	プラットフォーム管理: LSB テーブル	69

表 3-15	プラットフォーム管理: システムコンポーネントテーブル	70
表 3-16	プラットフォーム管理: 環境監視テーブル	71
表 3-17	プラットフォーム管理: ドメインテーブル	72
表 3-18	プラットフォーム管理: ドメインテーブルのポップアップメニュー	73
表 3-19	プラットフォーム管理: 入出力ボックスシャーシテーブル	74
表 3-20	プラットフォーム管理: 入出力ボックスシャーシテーブルのポップアップメニュー	74
表 3-21	プラットフォーム管理: 入出力ポートテーブル	75
表 3-22	プラットフォーム管理: 入出力ポートテーブルのポップアップメニュー	76
表 3-23	プラットフォーム管理: リンクカードテーブル	76
表 3-24	プラットフォーム管理: 入出力ボックス電源装置とファンテーブル	77
表 3-25	プラットフォーム管理: 入出力ボックス電源装置とファンテーブルのポップアップメニュー	78
表 3-26	プラットフォーム管理: 入出力ボックスセンサーテーブル	78
表 3-27	ドメイン表示: ドメインテーブル	79
表 3-28	ドメイン表示: ドメインテーブルのポップアップメニュー	80
表 3-29	ドメイン表示: システムボードテーブル	81
表 3-30	ドメイン表示: XSB テーブル	82
表 3-31	ドメイン表示: LSB テーブル	83
表 4-1	ドメイン管理: システムテーブル	89
表 4-2	ドメイン管理: 論理システムボードテーブル	90
表 4-3	ドメイン管理: PCI カードテーブル	91
表 4-4	ドメイン管理: プロセッサテーブル	91
表 4-5	ドメイン管理: メモリーコントローラテーブル	92
表 4-6	ドメイン管理: ディスクデバイステーブル	93
表 4-7	ドメイン管理: テープデバイステーブル	94
表 4-8	ドメイン管理: ネットワークインタフェーステーブル	95
表 5-1	入出力カード/デバイステーブルのメニューの DR オプション	99
表 5-2	入出力カード/デバイスの接続点のプロパティ	100
表 6-1	エラー状態規則のテーブルとプロパティ	103
表 6-2	エラー状態規則のプロパティ値	103

表 6-3	LED 状態規則のテーブルとプロパティ	104
表 6-4	LED 状態規則のプロパティ値	104
表 6-5	テスト状態規則のテーブルとプロパティ	104
表 6-6	テスト状態規則のプロパティ値	104
表 6-7	ドメイン状態規則のテーブルとプロパティ	105
表 6-8	ドメイン状態規則のプロパティ値	105
表 6-9	有効な状態規則のテーブルとプロパティ	105
表 6-10	有効な状態規則のプロパティ値	106
表 6-11	外部入出力拡張ユニット LED 状態規則のテーブルとプロパティ	106
表 6-12	外部入出力拡張ユニット LED 状態規則のプロパティ値	106
表 6-13	リンクカード LED 状態規則のテーブルとプロパティ	107
表 6-14	リンクカード LED 状態規則のプロパティ値	107
表 6-15	取り外し可能 LED 規則のテーブルとプロパティ	107
表 6-16	取り外し可能 LED 規則のプロパティ値	108
表 6-17	外部入出力拡張ユニットセンサー規則のテーブルとプロパティ	108
表 6-18	外部入出力拡張ユニットセンサー規則のプロパティ値	108
表 6-19	CPU 状態規則のテーブルとプロパティ	109
表 6-20	CPU 状態規則のプロパティ値	110
表 6-21	状態チェック規則のテーブルとプロパティ	110
表 6-22	状態チェック規則のプロパティ値	110
表 6-23	ディスクエラー数規則のテーブルとプロパティ	111
表 6-24	ディスクエラー数規則のプロパティ値	111
表 6-25	テープエラー数規則のテーブルとプロパティ	111
表 6-26	テープエラー数規則のプロパティ値	111

はじめに

このマニュアルでは、SPARC Enterprise Mx000 サーバーでの Sun Management Center 3.6.1 Version 2 ソフトウェアのインストール、構成、および使用の方法について説明します。このマニュアルは、経験豊富なシステム管理者を対象としています。

お読みになる前に

このマニュアル内の情報を最大限に活用するには、次のマニュアルの内容に関する知識が必要です。

- Sun Management Center インストールと構成ガイド
- Sun Management Center ユーザーガイド
- Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Administration Guide
- Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 User's Guide

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用 Sun Management Center アドオンソフトウェアの概要を示します。

第 2 章では、このアドオンソフトウェアをインストール、セットアップ、および構成する手順を示します。Sun SPARC[®] Enterprise Mx000 サーバーのアドオンソフトウェアに固有の setsunmc と showsunmc のマニュアルページが参考のために含まれます。

第 3 章では、プラットフォーム管理について説明しています。一般的なアクティブ管理作業と、プラットフォーム管理モジュールの表の説明が含まれます。

第 4 章では、ドメイン管理について説明しています。ドメイン管理モジュールの表の説明が含まれます。

第 5 章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインから、Sun Management Center コンソールとドメイン動的再構成モジュールを使用して、動的再構成 (DR) の操作を行う方法について説明しています。

第 6 章では、SPARC Enterprise Mx000 サーバーに固有の Sun Management Center アドオンソフトウェアのアラーム規則の概要を示します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris[™] オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

このマニュアルで使用する操作例について

このマニュアルで示す手順や操作の多くは、複数の方法で行うことができます。簡潔にするため、もっとも簡単または迅速な操作方法を 1 つだけ紹介します。

たとえば、メインコンソールウィンドウから Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの詳細表示を開く方法は 4 つあります。

- 階層表示 (ウィンドウの左側) で Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアイコンをクリックし、最上部のバーの「ツール」メニューをクリックし、「詳細」を選択する
- トボロジ表示 (ウィンドウ内の右側の表示) で前述と同じ操作を行う

- 階層表示内の Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアイコンをダブルクリックする
- トポロジ表示内の Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアイコンをダブルクリックする

同様に、アイコンを開く (または閉じる) 方法も複数あります。次の方法があります。

- 「すべて開く」 ボタンをクリックする (ウィンドウによっては、このボタンがないこともあります)
- アイコンの横の開く記号をクリックする
- 階層またはトポロジ表示内のアイコンをダブルクリックする

関連マニュアル

用途分類	タイトル
最新情報	Sun Management Center アドオンソフトウェアリリースノート: Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー Sun SPARC Enterprise Mx000 Servers Product Notes Sun Management Center ご使用にあたって
インストール	Sun Management Center インストールと構成ガイド
Sun Management Center ソフトウェア の使用方法	Sun Management Center ユーザーガイド
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/ M8000/M9000 サー バーの使用と管理の方 法	Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Administration Guide Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers User's Guide Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers XSCF Reference Manual

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の機能	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

Sun Management Center 3.6.1 Version 2 アドオンソフトウェア追補マニュアル、
Part No. 820-1934-10

第1章

概要

この章では、Sun™ Management Center ソフトウェアを使用した Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーのプラットフォーム管理とドメイン管理の概要を示します。

Sun Management Center アドオンソフトウェアについて

Sun Management Center ソフトウェアは、オープンで拡張可能なシステムの監視、管理アプリケーションです。Java™ ソフトウェアプロトコルと SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用しているため Sun 製品とそのサブシステム、コンポーネント、および周辺機器をエンタープライズ規模で包括的に管理できます。

『Sun Management Center ユーザーガイド』には、Sun Management Center アーキテクチャーの定義、説明、および図があります。コンソール、サーバー、エージェント、ドメイン、およびモジュールの相互作用については、このマニュアルを参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用アドオンソフトウェアでは、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーに使用できるように、Sun Management Center のコアソフトウェアが変更されます。

Sun Management Center 3.6.1 Version 2 アドオンソフトウェアでは、次のシステムのサポートが追加されました。

- Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー (ミッドレンジサーバー)
- Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー (ハイエンドサーバー)

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用のこのアドオンソフトウェアには、次の機能があります。

- ハードウェア監視

- 電源管理
- ドメイン管理
- 動的再構成 (DR)
- FRU 交換 (システムボード)

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーは、ハードウェアドメインに分割され、各ドメインでオペレーティングシステムの個別のインスタンスが実行されます。ハードウェアリソースの機能と数によって、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーでは最大 24 個のドメインをサポートできます。最小は 1 ドメインです。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーではドメインが使用されるため、アドオンソフトウェアには次の 2 つの操作モードがあります (図 1-1)。

- **ドメイン管理者**は、次の 2 通りの方法で Solaris オペレーティングシステムのドメイン表示にアクセスできます。
 - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサ上で動作するプラットフォームエージェントから
 - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン上で動作するエージェントから
- **プラットフォーム管理者**は、サービスプロセッサコンソールから、Sun Management Center プラットフォームエージェントを介してプラットフォーム表示にアクセスできます。

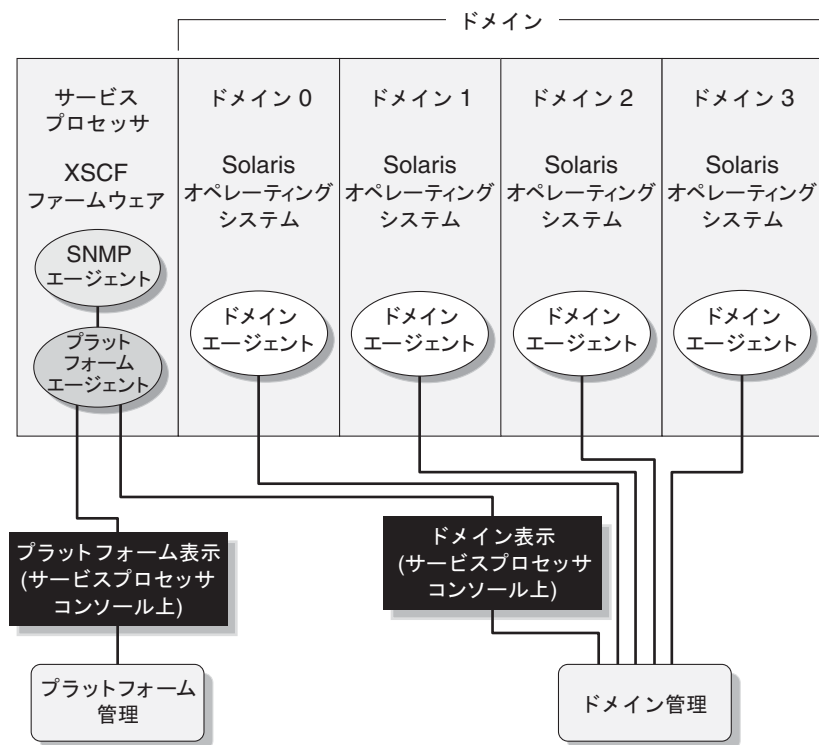


図 1-1 プラットフォームとドメインの管理表示

アドオンソフトウェアをホストマシン (ワークステーションまたはサーバー) にインストールすると、そのホストマシン上で Sun Management Center ソフトウェアを実行することによって、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサにアクセスできます (図 1-2 を参照)。

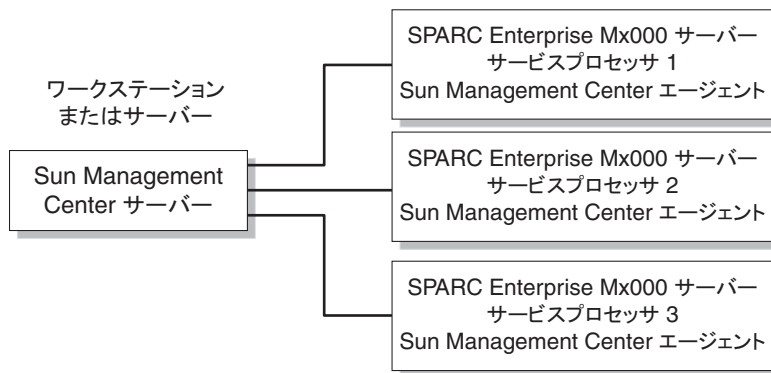


図 1-2 プラットフォームエージェントを使用した SPARC Enterprise Server のサービスプロセッサへのアクセス

プラットフォームとハードウェアドメインの区別

プラットフォームとハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウは、初期の表示がよく似ています。デフォルトでは、どちらのウィンドウにも「モジュールブラウザ」タブが開きます。

▼ プラットフォームの「詳細」ウィンドウを区別する

- プラットフォームの「詳細」ウィンドウには、プラットフォームのアイコンと次の 5 つのタブがあります。
 - 情報
 - モジュールブラウザ
 - アラーム
 - モジュールマネージャー
 - ハードウェア

▼ ハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウを区別する

- ハードウェアドメインの「詳細」ウィンドウには、ハードウェアドメインのアイコンと次の 6 つのタブがあります。

追加のタブは「アプリケーション」タブです。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- モジュールマネージャー
- アプリケーション
- ハードウェア

参考: このマニュアルで使用している用語

注 - このマニュアルでは、「管理ドメイン」とは、Sun Management Center の管理ドメインを指します。Sun のほかの製品やマニュアルでの用語「ドメイン」の用法と混同しないように注意してください。

管理ドメイン - 管理ドメインは、1 つ以上のホストシステムから構成されます。

動的再構成 - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用のアドオンソフトウェアには、動的再構成の操作を容易にするグラフィカルユーザーインターフェースがあります。Solaris オペレーティングシステムでは、動的再構成機能によって、オペレーティングシステムの動作中にコンパクト PCI 入出力カードをシステムから安全に取り外すことができます。サービスプロセッサでは、動的再構成によって、システムリソースを再構成し、システムボードを安全に交換できます。

プラットフォーム - 完全なサーバーシステムを指す用語です。このマニュアルで説明している Sun SPARC Enterprise M5000 サーバーはプラットフォームの一例です。

ドメインまたはハードウェアドメイン - Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバープラットフォーム内で、ドメインは、パーティション内の論理的に独立したシステムリソースの集合から構成されます。各ドメインでは、オペレーティングシステムの個別のコピーが実行されます。管理ドメインは、複数のハードウェアドメインやプラットフォーム全体から構成されるのに対して、このタイプのドメインは、システムボードやその他のデバイスから構成されます。わかりやすいように、このタイプのドメインは、このマニュアルではハードウェアドメインと呼びます。

参考: モジュール

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのハードウェア構成情報の表示、プロセス監視、および管理操作には、表 1-1 に示すモジュールを使用します。

表 1-1 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのモジュール

エージェントモジュール	説明
プラットフォーム管理モジュール SPARC Enterprise Mx000	プラットフォーム管理モジュール。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの監視とアクティブ管理が可能です。サービスプロセッサにあります。
ドメイン構成リーダー SPARC Enterprise Mx000	ドメイン管理モジュール。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメインを監視できます。
ドメイン DR SPARC Enterprise Mx000	ドメイン動的再構成 (DR) モジュール。管理者が、1 ドメインずつボードの動的再構成を行うことができます。

第2章

インストールとセットアップ

この章では、Sun Management Center のウィザードを使用して、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用 Sun Management Center ソフトウェアをインストール、セットアップ、アンインストール、再インストール、および再構成する方法について説明します。この章は、次の節から構成されます。

一般情報:

- 8 ページの「アドオンソフトウェアのインストールについて」
- 9 ページの「要件について」
- 9 ページの「ネットワークポートの構成について」
- 10 ページの「検出マネージャーの使用について」
- 10 ページの「インストールとセットアップの手順について」

操作手順:

- 12 ページの「インストール作業の概要」
- 12 ページの「Sun Management Center コアソフトウェアのインストール」
- 13 ページの「Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の新しい Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールとセットアップ」
- 14 ページの「ホストとインストールするレイヤー」
- 16 ページの「Sun Management Center インストールウィザードを使用したアドオンソフトウェアのインストール」
- 17 ページの「Sun Management Center セットアップウィザードを使用したアドオンソフトウェアのセットアップ」
- 19 ページの「セキュリティアクセスのセットアップ」
- 21 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」
- 23 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」
- 25 ページの「セットアップパラメータの再構成」
- 28 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」

参考:

- 32 ページの「参考: インストールとセットアップのログファイル」
- 32 ページの「参考: setsunmc と showsunmc のマニュアルページ」
- 38 ページの「参考: SPARC Enterprise サーバー用アドオンソフトウェアに固有のパッケージ」

- 39 ページの「参考: ネットワークポートの構成」
- 40 ページの「参考: アクセス権用管理グループ」

コマンド行インタフェース (CLI) で `es-inst` コマンドと `es-setup` コマンドを使用してソフトウェアをインストールおよびセットアップすることもできます。インストールに CLI を使用する方法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

アドオンソフトウェアのインストールについて

Sun Management Center ソフトウェアは、次の 3 通りの形式で提供されています。

- Sun Management Center のインフラストラクチャーと基本サポートを提供するコアパッケージ
- 特定のハードウェアプラットフォーム用のサポートを提供するアドオンコンポーネント
- 追加機能を提供する別ライセンスのアドオン製品

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサポートには、Sun Management Center のコアパッケージと Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用のアドオンソフトウェアが必要です。Sun Management Center ソフトウェアのインストール、セットアップ、起動、および停止については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。この章では、特に Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーに関連する作業について説明します。

Sun Management Center ソフトウェアと、特定のハードウェアプラットフォーム用アドオンソフトウェアは、通常は次の 3 箇所にインストールする必要があります。

- Sun Management Center サーバーホスト
- Sun Management Center コンソールホスト
- 監視対象のハードウェアプラットフォーム、この場合は Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー

注 – Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサには、Sun Management Center ソフトウェアとプラットフォーム固有のアドオンソフトウェアがプリインストールされています。したがって、ソフトウェアは、サーバー、コンソール、および SPARC Enterprise Mx000 ドメインホストだけにインストールします。



注意 – Sun Management Center ソフトウェアに付属しているインストールおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center のスクリプトやウィザードのパネルで表示されるメッセージの内容および順番が、この章で示す例と異なることがあります。この章で示す例は、実際に表示されるメッセージのおおよその内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトとセットアップスクリプトは、インストールするアドオンコンポーネントやその他の選択オプションによって異なります。

要件について

Sun Management Center の一般的な前提条件については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

このアドオンソフトウェアの最新リリースの最低限の要件については、最新リリースの『Sun Management Center アドオンソフトウェアリリースノート』を参照してください。

ネットワークポートの構成について

デフォルトのポート構成が、システムですでに実行中のソフトウェアと衝突する場合があります。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメインに旧リリースのエージェントがあると、ポート 161 の衝突が発生します。衝突を防ぐには、Sun Management Center ソフトウェアのセットアップ処理中に別のネットワークポートを指定します。ポートの衝突の解決については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

Sun Management Center のエージェントレイヤーソフトウェアでは、トポロジオブジェクトの作成とアクセスにデフォルトでポート 161 が使用されます。別のポートを使用するようにエージェントを構成した場合は、トポロジオブジェクトの作成時または検出時にそのポートを指定する必要があります。Sun Management Center のネットワーク構成と管理を簡素化し、Sun Management Center エージェントの検出効率を高めるには、別のポート番号を選択し、デフォルトのポート構成を使用できないすべてのエージェントインストールにその番号を使用します。

デフォルトのネットワークポート構成については、32 ページの「参考: setsunmc と showsunmc のマニュアルページ」と 39 ページの「参考: ネットワークポートの構成」を参照してください。

サービスプロセッサのフェイルオーバーについて

アドオンソフトウェアで、ハイエンドサーバーのサービスプロセッサのフェイルオーバーをサポートするには、アクティブなサービスプロセッサのテイクオーバー IP アドレス (lan#0 など) を設定する必要があります。詳細は、XSCF コマンド `setnetwork(8)` と `setroute(8)` のマニュアルページを参照してください。

検出マネージャーの使用について

検出マネージャーを使用して、管理ドメインを自動的に生成できます。詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の「検出マネージャーによるトポロジデータベースへのオブジェクトの追加」の章を参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインの検出オブジェクト要求を定義し、開始するときに、「設定の変更」タブの「SNMP」セクションで、SNMP のデフォルトのコミュニティ文字列を `oplsunmc` に変更する必要があります。手順については、『Sun Management Center ユーザーガイド』の「検出オブジェクト要求の設定を変更する」を参照してください。

ドメインでソフトウェアをセットアップするときには、SNMPv1 コミュニティ文字列を `oplsunmc` に設定する必要があります。詳細は、17 ページの「Sun Management Center セットアップウィザードを使用したアドオンソフトウェアのセットアップ」を参照してください。

インストールとセットアップの手順について

Sun Management Center ソフトウェアは、複数の方法でインストール、セットアップ、アンインストール、および更新できます。ユーザーのアクセス権も設定する必要があります。表 2-1 に、それぞれの方法と、このマニュアルと『Sun Management Center インストールと構成ガイド』内の参照先を示します。

表 2-1 インストール、セットアップ、アンインストール、および更新の手順

作業	参照先
Sun Management Center インストールウィザードを 使用したソフトウェアの インストール	コアソフトウェアの場合: 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』 このアドオンソフトウェアの場合: 16 ページの「Sun Management Center イン ストールウィザードを使用したアドオンソフトウェアのインストール」
Sun Management Center セットアップウィザードを 使用したソフトウェアの セットアップ	コアソフトウェアの場合: 『Sun Management Center インストールと構成ガイ ド』 このアドオンソフトウェアの場合: 17 ページの「Sun Management Center セット アップウィザードを使用したアドオンソフトウェアのセットアップ」
セキュリティアクセスの セットアップ	コアソフトウェアの場合: 『Sun Management Center ユーザーガイド』 このアドオンソフトウェアの場合: 19 ページの「セキュリティアクセスのセッ トアップ」
ウィザードを使用したソフ トウェアの起動	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es- guistart によるコンポーネントの起動」
ウィザードを使用したソフ トウェアの停止	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es- guistop によるコンポーネントの停止」
ウィザードを使用したソフ トウェアのアンインストール	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 A
CLI を使用したコアソフト ウェアとアドオンソフト ウェアのインストール	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI を使用したアドオンソ フトウェアのセットアップ	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI を使用したソフトウェ アのアンインストール	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B このアドオンソフトウェアの場合: 28 ページの「CLI によるソフトウェアのアン インストール」
CLI を使用したソフトウェ アの起動	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-start によるコンポーネントの起動」 このアドオンソフトウェアの場合: 21 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」
CLI を使用したソフトウェ アの停止	『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-stop によるコンポーネントの停止」 このアドオンソフトウェアの場合: 23 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」

インストール作業の概要

図 2-1 に、Sun Management のサーバー、コンソール、およびサーバードメインソフトウェアのインストール作業の概要を示します。ソフトウェアはサービスプロセッサにはプリインストールされています。

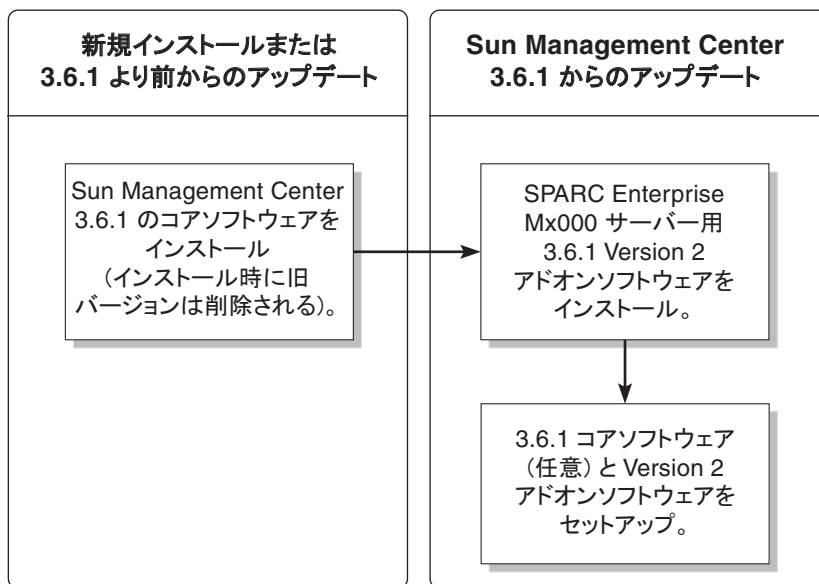


図 2-1 Sun Management Center のサーバー、コンソール、およびサーバードメインのインストール作業のフロー

Sun Management Center コアソフトウェアのインストール

Sun Management Center 3.6.1 のコアソフトウェアをインストールしていない場合は、アドオンソフトウェアの Version 2 をインストールする前にインストールする必要があります。

注 – Sun Management Center 3.6.1 のコアソフトウェアのインストール時には、Sun Management Center ソフトウェアの旧リリースはアンインストールされます。旧リリースからのアップグレードについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

▼ Sun Management Center 3.6.1 のコアソフトウェアをインストールする

- コアソフトウェアのインストール手順については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

Sun Management Center ソフトウェアの旧リリースをアップグレードする場合は、インストールしているアドオンソフトウェアも含め、現在インストールされているリリースからソフトウェアを更新する方法を参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の新しい Sun Management Center アドオンソフトウェアのインストールとセットアップ

この節では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用アドオンソフトウェアのインストール手順とセットアップ手順の概要を示します。

サーバーマシンのサーバーレイヤー

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center のコアサーバーレイヤーとアドオンコンポーネントを、指定の Sun Management Center サーバーマシンにインストールし、セットアップします。コアサーバーレイヤーをインストールすると、Sun Management Center のコアエージェントレイヤーが Sun Management Center サーバーマシンに自動的にインストールされます。これは、サーバーマシン自体を監視できるようにするためです。

ワークステーションまたはネットワークのコンソールレイヤーと基本ヘルプ

Sun Management Center のコアコンソールレイヤー、基本ヘルプコンポーネント、およびコンソール DR サポートを、ネットワーク上の共通の場所、または GUI を使用して監視を行う各ワークステーションにインストールし、セットアップします。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーにプリインストールされたプラットフォームエージェントレイヤー

監視対象の Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサに Sun Management Center ソフトウェアをインストールする必要はありません。サービスプロセッサには、コアソフトウェアとアドオンソフトウェアの両方がプリインストールされています。

ホストとインストールするレイヤー

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサポートのため、表 2-2 に示すように Sun Management Center アドオンソフトウェアをインストールし、セットアップします。サーバーとコンソールホストでのコアソフトウェアのインストールとセットアップについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』で説明しています。また、Sun Management Center ソフトウェアの起動と停止の手順も示しています。

表 2-2 ホストとインストールするレイヤー

ホスト	レイヤー	インストールするソフトウェア
Sun Management Center のサーバーマシン	サーバー	Sun Management Center のコアサーバーレイヤー Sun Management Center のコアエージェントレイヤー (自動) Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン監視サーバーコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン DR サーバーコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのプラットフォーム管理サーバーコンポーネント
ワークステーションまたはネットワーク上の共通の場所	コンソール	Sun Management Center コンソールレイヤーと基本ヘルプコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのプラットフォーム管理コンソールコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン監視コンソールコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン DR コンソールコンポーネント
Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサ	エージェント	ソフトウェアはプリインストールされています。 Sun Management Center のコアエージェントレイヤー Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのプラットフォーム管理エージェントコンポーネント
Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン	エージェント	Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン監視エージェントコンポーネント Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメイン DR エージェントコンポーネント

注 - エージェントアップデートを使用したインストールは、サーバードメインだけでサポートされています。

Sun Management Center インストール ウィザードを使用したアドオンソフト ウェアのインストール

すべてのソフトウェアのインストール方法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章の Solaris プラットフォームへの Sun Management Center のインストールに関する節で詳しく説明しています。この作業の概要を次に示します。

▼ Sun Management Center インストールウィザードを使用してアドオンソフトウェアをインストールする

1. スーパーユーザーで Sun Management Center のインストールウィザード `es-guiinst` を実行します。

`es-guiinst` コマンドについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

- a. コアソフトウェアの適切なバージョンをまだインストールしていない場合は、先に Sun Management Center のコアソフトウェアのインストールまたは更新の手順に従います。
- b. コアソフトウェアの適切なバージョンをインストールしたら、ローカルのインストールディレクトリにある `es-guiinst` コマンドを使用します。
デフォルトの場所は `/opt/SUNWsymon/sbin/esguiinst` です。
- c. 「次へ」をクリックして次のウィンドウに進みます。

2. アドオンソフトウェアのイメージのソースディレクトリを入力または参照して選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「アドオン製品の選択」画面に、インストールできるアドオン製品の一覧が表示されます。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用のアドオン製品を選択し、「次へ」をクリックします。
ソフトウェアがインストールされます。

4. ソフトウェアがインストールされたら、Sun Management Center のセットアップウィザードを使用してソフトウェアをセットアップできます。
コアソフトウェアをまだセットアップしていない場合は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 1 章を参照してください。アドオンソフトウェアのセットアップについては、17 ページの「Sun Management Center セットアップウィザードを使用したアドオンソフトウェアのセットアップ」を参照してください。
5. `setsunmc` コマンドを使用して、監視対象の Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサでソフトウェアをセットアップします。

Sun Management Center セットアップ ウィザードを使用したアドオンソフト ウェアのセットアップ

この節では、Sun Management Center のセットアップウィザードを使用してアドオンソフトウェアをセットアップする方法について説明します。このサンプル手順では、サーバーマシンでのソフトウェアのセットアップ方法を示します。次の点に注意してください。

- ドメインでソフトウェアをセットアップするには、SNMPv1 コミュニティー文字列を `oplsunmc` に設定する必要があります。
- サービスプロセッサで Sun Management Center のアドオンソフトウェアのエージェントレイヤーをセットアップする方法については、33 ページの「`setsunmc`」を参照してください。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (ボタンがグレー表示されていない場合)、ボタンをクリックして直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることはできません。

注 – `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンのセットアップをほかのマシンに複製する場合は、Sun Management Center のコアソフトウェアのセットアップ中に「セットアップ応答データの保存」を選択します。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の Solaris プラットフォームでのコア製品とアドオンのセットアップに関する節を参照してください。

▼ サーバーマシンでアドオンソフトウェアをセットアップする

1. 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 7 章を参照して、`es-guisetup` コマンドを使用したアドオン製品のセットアップ手順に従います。

「アドオン製品の選択」パネルが表示されるとき、システムにインストールされているアドオン製品の一覧には、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのアドオン製品に含まれる製品も表示されます。

```
The following add-on products are newly installed on this system
and will be set up.
```

- DomMonit SPARC Enterprise Mx000
- Dom DR SPARC Enterprise Mx000
- PlatAdmin SPARC Enterprise Mx000

2. 必要な場合は、セットアップするアドオンを選択します。「次へ」をクリックして、次に進みます。

「サーバーセットアップ」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

更新が完了したら、「サーバーセットアップ」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun SPARC Enterprise Mx000 setup is complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「サーバーセットアップ」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

更新が完了したら、「サーバーセットアップ」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun SPARC Enterprise Mx000 setup is complete.
```

▼ サービスプロセッサでアドオンソフトウェアを セットアップする

- サービスプロセッサでは、XSCF プロンプトで `setsunmc` コマンドを使用して Sun Management Center エージェントをセットアップします。

```
XSCF> setsunmc -s server -z seed -c community_string
```

`setsunmc` コマンドについては、33 ページの「`setsunmc`」を参照してください。

セキュリティアクセスのセットアップ

注意 – Sun Management Center ソフトウェアをインストールし、セットアップしたら、ユーザーが行う作業に応じてユーザーをセットアップします。この節では、次の手順を示します。

- 20 ページの「Sun Management Center のデフォルトのアクセス権をセットアップする」
- 20 ページの「プラットフォーム表示とドメイン表示の管理グループをセットアップする」 - プラットフォーム管理モジュールのドメイン表示を使用するには、Sun Management Center のデフォルトの管理グループに加えて、追加グループを作成し、そのグループにユーザーを追加する必要があります。
- 21 ページの「サービスプロセッサで権限をセットアップする」 - ユーザーがプラットフォーム管理モジュールからアクティブ管理操作を起動するには、サービスプロセッサに対する有効な XSCF ユーザー名と `platadm` 権限が必要です。



注意 – 1 つのユーザー名にはグループを 16 個まで割り当てることができます。17 個目以降のグループは無視されるので、ユーザーのアクセスの問題が発生します。16 個のグループの制限を超えていた場合、ユーザーが特定のグループに属しているようでも、ユーザーにはそのグループのアクセス権がない可能性があります。

▼ Sun Management Center のデフォルトのアクセス権をセットアップする

- セキュリティー機能、ユーザーとグループ、およびその権限については、『Sun Management Center ユーザーガイド』の「Sun Management Center のセキュリティー」の章を参照してください。

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの管理グループについては、40 ページの「参考: アクセス権用管理グループ」を参照してください。

▼ プラットフォーム表示とドメイン表示の管理グループをセットアップする

1. `groupadd` コマンドを使用して、プラットフォーム表示とドメイン表示用の管理グループ名を `/etc/group` ファイルに追加します。

```
% /usr/sbin/groupadd groupname
```

ドメイン表示の場合、`groupname` の値は次のいずれかにできます。

- `dom0adm`
- `dom1adm`
- `dom2adm`

...

- `dom23adm`

プラットフォーム表示の場合、`groupname` の値は次のいずれかにできます。

- `platadm`
- `platop` (読み取り専用)

注 – `platadm` グループ名と、21 ページの「サービスプロセッサで権限をセットアップする」に示す `platadm` 権限は異なります。`platadm` グループ名の末尾には `n` を付加する必要があります。

2. `/etc/group` ファイルを編集してユーザー名をグループに追加します。

▼ サービスプロセッサで権限をセットアップする

この手順を実行するには、useradm 権限を持つ XSCF アカウントが必要です。詳細は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの管理者ガイドまたはリファレンスマニュアル、または adduser(8)、password(8)、および setprivileges(8) のマニュアルページを参照してください。

1. XSCF ユーザーアカウントがない場合は、adduser コマンドと password コマンドを使用してアカウントとパスワードを作成します。
 - a. ユーザーを追加します。

```
XSCF> adduser user
```

- b. ユーザーのパスワードを設定します。

```
XSCF> password user  
Please enter your password:
```

2. setprivileges コマンドを使用して、ユーザーに platadm 権限を追加します。

```
XSCF> setprivileges user platadm
```

3. ユーザーが FRU を交換する場合は (53 ページの「FRU の交換」)、ユーザーに fieldeng 権限を追加します。

```
XSCF> setprivileges user fieldeng
```

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

es-start コマンドに指定する引数は、起動するコンポーネントによって異なります。es-start のオプション一覧については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。この一覧は、es-start の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-start のオプションを、次の手順に示します。

▼ Sun Managemnet Center ソフトウェアを起動する

1. コンポーネントを起動するマシンにスーパーユーザーでログインします (コンポーネントの場所については、表 2-2 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトのディレクトリ /opt にインストールされていると想定しています。別のディレクトリにインストールされている場合は、/opt を実際のパスに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. サービスプロセッサの XSCF プロンプトで `setsnmp` コマンドと `setsunmc` コマンドを使用して、SNMP エージェントをアクティブにし、Sun Management Center エージェントを起動します。

```
XSCF> setsnmp enable  
XSCF> setsunmc enable
```

詳細は、33 ページの「setsunmc」、および `setsnmp(8)` と `setsunmc(8)` のマニュアルページを参照してください。

4. Sun Management Center エージェントレイヤーだけがインストールされている Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインで Sun Management Center エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -a
```

5. すべてのレイヤーがインストールされている Sun Management Center サーバーホストで Sun Management Center コンポーネントをすべて起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -A
```

注 – 再起動すると、Sun Management Center のすべてのエージェントが自動的に起動します。

6. コンソールを起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -c
```

注 – コンソールは、自分のユーザー ID でログインしていても起動できます。スーパーユーザーとしてログインしている必要はありません。ただし、プラットフォームまたはドメインの構成リーダーにアクセスするには、適切なセキュリティアクセスグループに属している必要があります。

注 – サービスプロセッサでは、「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブにプラットフォーム管理モジュールが表示されます。このプラットフォーム管理モジュールはアンロードしないでください。間違えてアンロードした場合の再ロード手順については、27 ページの「プラットフォーム管理モジュールを再ロードする」を参照してください。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了

この節では、Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了について説明します。

- サーバーとエージェントコンポーネントを停止するには、適切なコマンド引数を指定して `es-stop` コマンドを入力します。
- メインコンソールウィンドウからコンソールを終了します。

▼ サーバーとエージェントを停止する

`es-stop` コマンドに指定する引数は、停止するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の `es-stop` のオプション一覧を参照してください。この一覧は、`es-stop` の `-h` オプションを使って表示することもできます。よく使われる `es-stop` のオプションを、次の手順に示します。

1. コンポーネントを停止するマシンにスーパーユーザーでログインします (コンポーネントの場所については、表 2-2 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトのディレクトリ /opt にあると想定しています。別のディレクトリにある場合は、/opt を実際のパスに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. サーバマシンでサーバとエージェントコンポーネントを停止するには、次のように入力します。

```
# ./es-stop -A
```

4. ドメインのホストマシンでドメインエージェントコンポーネントを停止するには、次のように入力します。

```
# ./es-stop -a
```

5. サービスプロセッサで、サービスプロセッサとプラットフォームエージェントを監視するホストエージェントを停止するには、XSCF プロンプトで次のように入力します。

```
XSCF> setsunmc disable
```

setsunmc コマンドの使用方法については、33 ページの「setsunmc」を参照してください。

▼ コンソールを終了する

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから「ファイル」、「終了」の順に選択します。
2. 「Sun Management Center を終了」パネルで「終了」ボタンをクリックします。

セッティングパラメータの再構成

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのセッティングパラメータは、セッティングスクリプト (es-setup) を再び実行することでいつでも再構成できます。次のような変更が発生した場合は、適切なセッティングパラメータを再構成する必要があります。

- Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのシステム名が変更された場合は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのドメインとプラットフォームコンポーネントを再構成します。
- Sun Management Center ドメインエージェントのポート構成が変更された場合は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのプラットフォームコンポーネントを再構成します。
- Sun Management Center サーバーホストまたはトラップエージェントのポート構成が変更された場合は、プラットフォームとドメインコンポーネントを再構成します。
- ホストの IP アドレスが変更された場合は、そのホストにあるコンポーネントを再構成します。

これらのコンポーネントの場所については、表 2-2 を参照してください。

▼ セッティングを再実行する

1. 再構成するコンポーネントがあるマシンにスーパーユーザーでログインします (コンポーネントの場所については、表 2-2 を参照)。
2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、デフォルトのディレクトリ /opt を使用していると想定しています。別のディレクトリを使用している場合は、/opt を実際のパスに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. 再構成するコンポーネントを停止します。

コンポーネントを停止するコマンドは、再構成するコンポーネントによって異なります。

- 現在サーバーマシンで実行中のサーバーとエージェントコンポーネントを停止するには、次のように入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

- 現在ドメイン内で実行中のドメインエージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# ./es-stop -a
```

- サービスプロセッサの Sun Management Center エージェントを停止するには、XSCF プロンプトで `setsunmc` コマンドを使用します。
`setsunmc` コマンドの使用方法については、33 ページの「`setsunmc`」を参照してください。

4. 再構成するコンポーネントに対してセットアップを再実行します。

- セットアップスクリプトを実行して、Sun Management Center のコアソフトウェアとアドオンソフトウェアを再構成します。

```
# ./es-setup -F
```

`es-setup` コマンドのほかの引数の使用方法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

- サービスプロセッサで、`setsunmc` コマンドを使用してソフトウェアを再構成します。
`setsunmc` コマンドの使用方法については、33 ページの「`setsunmc`」を参照してください。

5. 次の 2 つの追加プロンプトで、対応するコンポーネントのセットアップ手順の指示に従います。

Sun Management Center サーバーのセットアップでは、次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve your existing data? [y|n|q]
```

注 - y (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが保持されます。

- a. 既存のトポロジとイベントデータを保持するには `y` を、データを破棄するには `n` を入力します。

ドメインエージェントのセットアップでは、次のメッセージが表示されます。

```
server-hostname appears to be configured as your Sun Management
Center server. Is this correct? [y|n|q]
```

- b. これが Sun Management Center サーバーの場合は `y` を、サーバーではない場合は `n` を入力します。`n` を入力した場合、正しいサーバーホスト名を入力するプロンプトが表示されます。

6. 停止したコンポーネントを再起動します。

▼ プラットフォーム管理モジュールを再ロードする

注 – サービスプロセッサでは、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのプラットフォーム管理モジュールをアンロードしないでください。モジュールを間違えてアンロードした場合は、次の手順で再ロードしてください。

1. サービスプロセッサにログインします。
`platadm` または `fieldeng` 権限があることを確認します。
2. `setsunmc disable` を使用して、サービスプロセッサで Sun Management Center エージェントを無効にします。

```
XSCF> setsunmc disable
```

3. XSCF プロンプトで、`setsunmc -s` を使用してサーバー名をリセットします。

```
XSCF> setsunmc -s server
```

4. `setsunmc enable` を使用して、サービスプロセッサで Sun Management Center エージェントを有効にします。

XSCF> **setsunmc enable**

プラットフォーム管理モジュールがまた「詳細」ウィンドウに表示されるようになります。

setsunmc コマンドについては、33 ページの「setsunmc」を参照してください。

CLI によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して次のソフトウェアをアンインストールすることができます。

- Sun Management Center ソフトウェアをすべてサーバーとコンソールホストから (28 ページの「Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)
- Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用アドオンソフトウェアだけをサーバーとコンソールホストから (30 ページの「アドオンソフトウェアだけをアンインストールする」を参照)

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサにプリインストールされている Sun Management Center ソフトウェアはアンインストールできません。

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザーで次のように入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-uninst
```

この例では、ソフトウェアがデフォルトのディレクトリ /opt/SUNWsymon/sbin にあると想定しています。別のディレクトリにある場合は、デフォルトのディレクトリを実際のパスに置き換えてください。

次のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----  
  
Production Environment                 All Addons  
DomMonit SPARC Enterprise Mx000       None  
Dom DR SPARC Enterprise Mx000         None  
PlatAdmin SPARC Enterprise Mx000     None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 本稼働環境をアンインストールしてもよい場合は **y** を入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。

次のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!
```

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 次のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**n** を入力します。

次のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.
```

```
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - y (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが保持されます。

4. 既存のトポロジとイベントデータを保持するには `y` を、データを破棄するには `n` を入力します。

次のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールを実行するには `y` を、アンインストールを中止するには `n` を入力します。

`y` を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

▼ アドオンソフトウェアだけをアンインストールする

1. Sun SPARC Enterprise Mx000 ドメインの「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブでドメイン DR モジュールをアンロードします。

ドメイン DR モジュールをアンインストールするには、先にモジュールをアンロードする必要があります。モジュールのロードとアンロードについては、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

2. スーパーユーザーで次のように入力します。

```
# ./es-uninst
```

次のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

PRODUCT	DEPENDENT PRODUCTS
Production Environment	All Addons
DomMonit SPARC Enterprise Mx000	None
Dom DR SPARC Enterprise Mx000	None
PlatAdmin SPARC Enterprise Mx000	None

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

3. 本稼働環境をアンインストールしない場合は、n を入力します。



注意 - y を入力して本稼働環境をアンインストールした場合、コアソフトウェアを含む Sun Management Center ソフトウェアがすべて削除されます。

次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall DomMonit SPARC Enterprise Mx000? [y|n|q]
```

4. y を入力して DomMonit SPARC Enterprise Mx000 をアンインストールします。
削除される製品と次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

5. 次のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、y を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、n を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data. Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.  
Do you want to preserve data? [y|n|q]
```

注 - y (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが保持されます。

6. 既存のトポロジとイベントデータを保持するには y を、データを破棄するには n を入力します。

次のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

7. アンインストールを実行するには `y` を、アンインストールを中止するには `n` を入力します。

`y` を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

参考: インストールとセットアップのログファイル

この節では、インストールスクリプトとセットアップスクリプトの終了時に表示されるメッセージの例を示します。これらのファイルでは、インストールとセットアップ中に問題がなかったかどうかを確認し、またこれらのファイルをエラーの診断に使用できます。

次の例は、インストールスクリプト終了時のメッセージを示します。
`nnnnnnnnnnnnnnnnnnnn` はインストールログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/install.nnnnnnnnnnnnnnnnnnn
```

次の例は、セットアップスクリプト終了時のメッセージを示します。
`nnnnnnnnnnnnnnnnnnnn` はセットアップログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/setup.nnnnnnnnnnnnnnnnnnn
```

参考: setsunmc と showsunmc のマニュアルページ

この節には、`setsunmc(8)` コマンドと `showsunmc(8)` コマンドのマニュアルページを示します。これらのマニュアルページは、サービスプロセッサにもインストールされています。これらのマニュアルページとその他の XSCF のマニュアルページを表示するには、SPARC Enterprise Mx000 サーバーのサービスプロセッサの XSCF プロンプトで `man(1)` コマンドを使用します。

setsunmc

名前

setsunmc - Sun Management Center エージェントを起動または停止し、構成を変更する

形式

```
setsunmc [enable|disable]
```

```
setsunmc -A
```

```
setsunmc [-s server] [-z seed] [-p agent_port] [-c community_string] [-t  
trap_port] [-e event_port] [-a SNMP_agent_port] [-a dmn_agent_port]
```

```
setsunmc [-h]
```

説明

1 つまたは複数のオプションを指定して setsunmc を実行すると、Sun Management Center エージェントの構成が変更されます (「オプション」の項を参照)。

enable オペランドを指定して setsunmc を実行すると、Sun Management Center エージェントがアクティブになります。このとき、Sun Management Center エージェントが起動され、そのあとの再起動時にエージェントを起動するように起動デーモンに通知されます。**disable** オペランドを指定して実行すると、エージェントは停止し、そのあとの再起動時のエージェントの起動を無効にするように起動デーモンに通知されます。

これらのオペランドは、オプションと同時に使用できません。

権限

このコマンドを実行するには、platadm 権限または fieldeng 権限が必要です。

詳細は、setprivileges(8) を参照してください。

オプション

次のオプションがサポートされています。これらのオプションは、オペランドと同時に使用できません。

<code>-a snmp_agent_port</code>	SNMP エージェントでの待機ポートを指定します。デフォルト値は 161 です。この値は、SNMP エージェントのポートを変更した場合にのみ変更します。
<code>-c community_string</code>	SNMPv1 トラップホスト snmp セットアップに使用するコミュニティ文字列を指定します。デフォルト値は <code>public</code> です。
<code>-d dmn_agent_port</code>	ドメインで実行する Sun Management Center エージェントのポートを指定します。デフォルト値は 1161 です。このドメインエージェントポートは、複合オブジェクトの作成時に使用されます。Sun Management Center ドメインエージェントでは、複合オブジェクトドメインが正常に作成されるように、通常は同じポートが使用されます。
<code>-e event_port</code>	イベントを送信する Sun Management Center サーバーのポートを指定します。デフォルト値は 163 です。
<code>-h</code>	使用方法が表示されます。 ほかのオプションやオペランドと同時に指定すると、エラーが発生します。
<code>-p agent_port</code>	Sun Management Center エージェントが待機するポート番号を指定します。デフォルト値は 1161 です。
<code>-s server</code>	エージェントが通信する Sun Management Center サーバーを指定します。サーバーはホスト名または IP アドレスで指定できます。エージェントを有効にする前に設定する必要があります。
<code>-t trap_port</code>	トラップを送信する Sun Management Center サーバーのポートを指定します。デフォルト値は 162 です。
<code>-z seed</code>	Sun Management Center のサーバーとエージェント間の通信のセキュリティーキーを生成するためのシードを指定します。この値は、サーバーのセットアップで使用するシードと同じである必要があります。エージェントを有効にする前に設定する必要があります。

オペランド

次のオペランドがサポートされています。これらのオペランドは、オプションと同時に使用できません。

enable	enable オペランドを指定して <code>setsunmc</code> を実行すると、Sun Management Center エージェントがアクティブになります。このとき、Sun Management Center エージェントが起動され、そのあとの再起動時にエージェントを起動するように起動デーモンに通知されます。
disable	disable オペランドを指定して <code>setsunmc</code> を実行すると、エージェントは停止し、そのあとの再起動時のエージェントの起動を無効にするように起動デーモンに通知されます。

例

コード例 2-1 引数を指定した基本のセットアップコマンド

```
XSCF> setsunmc -s balon -z maplesyr -c double_secret
```

コード例 2-2 エージェントの起動

```
XSCF> setsunmc enable
```

終了状態

終了値は返されません。

関連項目

`showsunmc` (8)

showsunmc

名前

`showsunmc` - Sun Management Center エージェントのセットアップ情報と状態を表示する

形式

showsunmc [isenabled]

showsunmc [-h]

説明

このコマンドは、Sun Management Center エージェントのセットアップ情報と現在の状態の表示に使用します。isenabled オプションを指定した場合、showsunmc コマンドの出力にエージェントの状態が表示されます。1 はエージェントが有効になっていることを示し、0 はエージェントが無効になっていることを示します。

オプション

次のオプションがサポートされています。

isenabled	エージェントの状態だけを表示します。値 1 はエージェントが有効になっていることを示し、0 はエージェントが無効になっていることを示します。
-h	使用方法が表示されます。 ほかのオプションやオペランドと同時に指定すると、エラーが発生します。

権限

このコマンドを実行するには、platadm 権限、platop 権限、または fieldeng 権限が必要です。

詳細は、setprivileges(8) を参照してください。

オペランド

このコマンドにはオペランドはありません。

例

コード例 2-3 エージェントの状態を表示: セットアップも有効化もされていない場合

```
XSCF> showsunmc
Agent Status:           Disabled
Setup Status:           Not set up
SunMC Server:           unknown
Security Seed:           maplesyr
SNMPv1 Community String: public
Agent Port:             1161
Host Trap Port:         162
Host Event Port:        163
SNMP Agent Port:        161
Domain Agent Ports:     1161
```

コード例 2-4 エージェントの状態を表示: セットアップされているが、有効化されていない場合

```
XSCF> showsunmc
Agent Status:           Disabled
Setup Status:           Set up
SunMC Server:           balon
Security Seed:           maplesyr
SNMPv1 Community String: double_secret
Agent Port:             1161
Host Trap Port:         162
Host Event Port:        163
SNMP Agent Port:        161
Domain Agent Ports:     1161
```

コード例 2-5 有効になっているエージェントの状態を表示

```
XSCF> showsunmc isenabled
1
```

終了状態

次の終了値が返されます。

0	正常終了。
1	エラー発生。

関連項目

setsunmc(8)

参考: SPARC Enterprise サーバー用アドオンソフトウェアに固有のパッケージ

Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用アドオンソフトウェアは、表 2-3 に示すパッケージで提供されています。これらのパッケージは、エージェント、コンソール、およびサーバーの各レイヤーにインストールされます。

表 2-3 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用 Sun Management Center のパッケージ

パッケージ	説明	レイヤー
プラットフォーム管理:		
SUNWesopls	OPL プラットフォーム管理用 SunMC サーバーサポートパッケージ	サーバー
SUNWesopli	OPL プラットフォーム管理用 SunMC サーバーサポートパッケージ	サーバー
SUNWesoplc	Sun Management Center コンソール OPL プラットフォーム管理	サーバー
SUNWesoplc	Sun Management Center コンソール OPL プラットフォーム管理	コンソール
ドメイン管理:		
SUNWesoplds	OPL ドメイン管理用 SunMC サーバーサポートパッケージ	サーバー
SUNWesoplda	OPL ドメイン用 Sun Management Center エージェントレイヤーサポート	ドメイン エージェント
SUNWesopldi	OPL ドメイン管理用 SunMC サーバーおよびエージェントサポートパッケージ	ドメイン エージェント

表 2-3 Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用 Sun Management Center のパッケージ (続き)

パッケージ	説明	レイヤー
ドメインの動的再構成 (DR):		
SUNWensdo	Sun Management Center OPL システム動的再構成メッセージ	サーバー
SUNWescdo	OPL システムでの Sun Management Center コンソールの動的再構成サポート	サーバー
SUNWessdo	OPL システムでの Sun Management Center サーバーの動的再構成サポート	サーバー
SUNWensdo	Sun Management Center OPL システム動的再構成メッセージ	コンソール
SUNWescdo	OPL システムでの Sun Management Center コンソールの動的再構成サポート	コンソール
SUNWesado	OPL システムでの Sun Management Center エージェントの動的再構成サポート	ドメイン エージェント

参考: ネットワークポートの構成

Sun Management Center ソフトウェアでは、システムのさまざまなコンポーネントと通信するためにネットワークポートが必要です。これらのコンポーネントのデフォルトのポートアドレスを表 2-4 に示します。

表 2-4 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

レイヤー	コンポーネント	デフォルトのポート番号
エージェント	SNMP エージェント	161
サーバー	トラップハンドラ	162
サーバー	イベントマネージャー	163
エージェント	サービスプロセッサエージェント	1161
エージェント	ドメインエージェント	1161
サーバー	構成サーバー	165
サーバー	メタデータ	168

参考: アクセス権用管理グループ

Sun Management Center ソフトウェアをインストールし、セットアップしたら、ユーザーが行う作業に応じてユーザーをセットアップします。この節では、このアドオンソフトウェア用の Sun Management Center のデフォルトの管理グループの一覧と説明を示します。これらのグループでのユーザーのセットアップ、プラットフォーム管理モジュールのドメイン表示用の管理グループのセットアップ、およびサービスプロセッサでの Sun Management Center ユーザーの権限の設定については、19 ページの「セキュリティアクセスのセットアップ」を参照してください。

Sun Management Center のデフォルトの管理グループ

表 2-5 に、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー用の Sun Management Center のデフォルトの管理グループの一覧を示します。

表 2-5 Sun Management Center のデフォルトの管理グループ

グループ名	グループ	説明
esadm	管理者グループ	モジュールのロードとアンロード、ユーザーやグループのアクセス制御の維持、管理ドメイン、ホスト、およびモジュールとの連携などの管理作業をすべて行うことができます。
esops	オペレータグループ	esadm 権限のサブセットがあります。モジュールを有効または無効にできますが、ロードとアンロードはできません。監視作業を行うことができます。イベントを確認、削除、または修正できます。
esdomadm	ドメイングループ	esadm 権限の Sun Management Center ドメイン固有のサブセットがあります。管理ドメインの作成、管理ドメイン内のグループの作成、グループや管理ドメインへのオブジェクトの追加が可能です。
ANYGROUP	一般ユーザーのグループ	デフォルトでは、esusers ファイル内のユーザーは、ANYGROUP グループのメンバーと見なされます。管理ドメイン、ホスト、モジュール、イベントの表示、データのグラフ作成、手動更新のトリガーが可能です。個別対応のコマンドも実行できます。

第3章

プラットフォーム管理

この章では、プラットフォーム管理モジュール「プラットフォーム管理モジュール SPARC Enterprise Mx000」について説明します。この章は次の節から構成されます。

- 42 ページの「プラットフォーム管理モジュールについて」
- 43 ページの「プラットフォーム管理モジュールへのアクセス」
 - 43 ページの「プラットフォーム管理モジュールにアクセスする」
- 44 ページの「プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行」
 - 44 ページの「サーバーハードウェアのセットアップ」
 - 46 ページの「サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、および作業変更」
 - 52 ページの「サーバーハードウェアの操作と保守」
 - 53 ページの「FRU の交換」
- 56 ページの「参考: プラットフォーム管理のプロパティと作業」
 - 59 ページの「プラットフォーム表示のテーブル」
 - 73 ページの「外部入出力」
 - 79 ページの「ドメイン表示」

また、次の各節では、プラットフォームの「詳細」ウィンドウでプラットフォームのハードウェアの概要表示、物理表示、および論理表示にアクセスする方法について説明しています。

- 83 ページの「「ハードウェア」タブについて」
 - 83 ページの「物理表示」
 - 84 ページの「論理表示」
- 84 ページの「「ハードウェア」タブの各表示へのアクセス」
 - 84 ページの「物理表示にアクセスする」
 - 84 ページの「論理表示にアクセスする」

プラットフォーム管理モジュールについて

プラットフォーム管理モジュール「プラットフォーム管理モジュール SPARC Enterprise Mx000」は、サーバープラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を示します。このモジュールには、サーバーのアクティブ管理用の対話型ポップメニューもあります。

注 – プラットフォーム管理モジュールはデフォルトでロードされます。プラットフォーム管理モジュールをアンロードおよび再ロードすることはできません。

プラットフォーム管理モジュールの更新

プラットフォーム管理モジュールには、プラットフォーム情報が保存されます。この情報は、次の 2 通りの方法で収集および更新されます。

- 一定の間隔 (60 分間隔) で、プラットフォーム管理モジュールが、サービスプロセスにある SNMP マネージャーと対話し、キャッシュ内のすべての内容が再生成されます。更新間隔の値は変更できません。
- 温度や電圧などプラットフォームのプロパティが変化すると、SNMP マネージャーから **Sun Management Center** ソフトウェアに通知されます。すると、プラットフォーム管理モジュールで、ブラウザ表示の該当するハードウェアのテーブルが更新されます。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウからブラウザを使用すると、任意のモジュールプロパティを更新できます。ただし、更新してもプラットフォームエージェントからプロパティの現在の値が取得されるだけで、データは再計算されません。

プラットフォーム管理モジュールへのアクセス

▼ プラットフォーム管理モジュールにアクセスする

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウを表示します。

メインコンソールウィンドウから、次のいずれかの方法で、対象プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。

- サーバーのアイコンをダブルクリックします。
- サーバーのアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの「詳細」を選択します。
- サーバーのアイコンを選択し、「ツール」メニューから「詳細」を選択します。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、ウィンドウに「モジュールブラウザ」タブが開きます。

2. プラットフォーム管理モジュールを展開します。

「詳細」ウィンドウ内に「ハードウェア」アイコンがあります。次のいずれかの方法でアイコンを展開するか、開きます。

- モジュールのアイコンの左側にある展開アイコンをクリックします。

「ハードウェア」アイコンが左側の区画で展開され、「プラットフォーム管理モジュール SPARC Enterprise Mx000」というプラットフォーム管理のアイコンが表示されます。
- モジュールのアイコンをダブルクリックします。

「ハードウェア」アイコンが左側の区画で展開され、プラットフォーム管理モジュールのアイコンが表示されます。モジュールのアイコンは右側の区画にも表示されます。

これで、左側の区画にプラットフォーム管理モジュールが表示されます。または、モジュールのアイコンをダブルクリックしてその内容を右側の区画に表示します。

3. テーブルを参照し、プラットフォームの状態を監視します。

手順 2 に示す方法で、テーブルに表示されるプロパティを参照します。

4. アクティブ管理作業を実行します。

プラットフォーム管理モジュールでアクティブ管理作業を実行するには、特定のテーブルを右クリックします。一般的な作業を行う方法については、44 ページの「プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行」を参照してください。また、各テーブルに対して実行できる作業の一覧については、モジュール内の各テーブルの参考の節を参照してください。

プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行

この節では、プラットフォーム管理モジュールの特定のテーブルを右クリックしてプラットフォーム管理モジュール内で共通のタスクを実行し、Sun SPARC Enterprise サーバーを管理する方法について説明します。モジュール内で使用可能なアクティブ管理コマンドの全一覧については、56 ページの「参考: プラットフォーム管理のプロパティと作業」内のテーブルや関連するポップアップメニューに関する節を参照してください。

この節では、次の作業を行う手順を示します。

- 44 ページの「サーバーハードウェアのセットアップ」
 - 45 ページの「簡単なドメインを構築する」
- 46 ページの「サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、および作業変更」
 - 47 ページの「ドメインから XSB を削除する」
 - 47 ページの「ドメインに XSB を追加する」
 - 48 ページの「ドメインを再構成する」
 - 51 ページの「XSB を移動する」
 - 51 ページの「入出力ポートの電源を切断する」
- 52 ページの「サーバーハードウェアの操作と保守」
 - 52 ページの「ドメインの電源を入れる」
 - 53 ページの「ドメインをリセットする」
 - 53 ページの「ドメインの電源を切る」

サーバーハードウェアのセットアップ

この項では、簡単なドメインを構築する手順を示します。

▼ 簡単なドメインを構築する

1. ソフトウェアにログインし、プラットフォームの「詳細」ウィンドウでプラットフォーム管理モジュールを表示します。
2. モジュールの項目を展開してテーブルを表示します。
3. ドメインコンポーネントリスト (DCL) をセットアップします。
 - a. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB を LSB に割り当て」を選択します。
「XSB を LSB に割り当て」ダイアログが表示されます。対象ドメインのドメイン ID が表示されます。
 - d. 対象の LSB と XSB の ID を選択し、「割り当てのリストへの追加」ボタンをクリックします。
 - e. 「XSB を割り当て」ボタンをクリックします。
割り当てが実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - f. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
4. 物理的なシステムボードモードを設定します。
 - a. システムボードテーブルを表示し、対象のシステムボードの行を選択します。
 - b. システムボードテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「SB モードの設定」を選択します。
「SB モードの設定」ダイアログが表示されます。対象のシステムボードが、「選択されたシステムボード」フィールドに表示されます。
 - d. 設定するモードを選択します。
 - e. 「モードの設定」ボタンをクリックします。
選択したモードに設定されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - f. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
5. ドメインに XSB を追加します。
 - a. XSB テーブルを表示し、対象 XSB の行を選択します。

- b. XSB テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB の追加」を選択します。
「XSB の追加」ダイアログが表示されます。対象のボードが、「選択されたボード」フィールドに表示されます。「現在の状態」ボックスに、対象のボードの現在の割り当てと構成の状態が表示されます。
 - d. 「XSB をドメインに追加」フィールドで、XSB を追加するドメイン ID を選択します。
 - e. 「XSB 追加後の状態」ボックスで、「構成済み」を選択します。
 - f. 「XSB の追加」ボタンをクリックします。
XSB がドメインに追加されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - g. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
6. ドメインの電源を入れます。
- a. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインを選択します。
 - b. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「ドメインの電源オン」を選択します。
「電源オン」確認ダイアログが表示されます。対象ドメインの名前がダイアログに表示されます。
 - d. 「了解」をクリックしてドメインの電源を入れます。

サーバーハードウェアのアップグレード、ダウングレード、および作業変更

この項では、次の一般的な作業を行う手順を示します。

- 47 ページの「ドメインから XSB を削除する」
- 47 ページの「ドメインに XSB を追加する」
- 48 ページの「ドメインを再構成する」
- 51 ページの「XSB を移動する」
- 51 ページの「入出力ポートの電源を切断する」

▼ ドメインから XSB を削除する

1. XSB テーブルを表示し、対象 XSB の行を選択します。
対象 XSB のドメイン ID を書き留めておきます。
2. テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「XSB の削除」を選択します。
「XSB の削除」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択されたボード」フィールドに表示されます。「現在の状態」ボックスに、現在の割り当てと構成の状態が表示されます。
4. 「XSB 削除後の状態」ボックスで、状態を選択します。
デフォルト値は「割り当て解除」です。
 - 割り当て解除 - XSB がドメイン構成から完全に削除され、システムボードのプールに入れます。XSB は、ここからほかのドメインに追加したり、割り当てたりできます。
 - 接続解除済み - ドメインへの「割り当て済み」状態を保ったまま XSB がドメイン構成から削除されます。XSB は、ドメインを再起動するか、「XSB の追加」ダイアログを使用して、同じドメイン構成に追加できます。
 - 予約済み - XSB はドメイン構成からすぐには削除されません。XSB は、ドメインの電源を切ったときにドメイン構成から完全に削除され、システムボードのプールに入れます。
5. 「XSB の削除」をクリックします。
「XSB の削除」処理が実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
6. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。

▼ ドメインに XSB を追加する

1. XSB テーブルを表示し、対象 XSB の行を選択します。
2. XSB テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「XSB の追加」を選択します。
「XSB の追加」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択されたボード」フィールドに表示されます。「現在の状態」ボックスに、現在の割り当てと構成の状態が表示されます。
4. 「XSB をドメインに追加」フィールドで、XSB を追加するドメイン ID を選択します。

5. 「XSB 追加後の状態」ボックスで、「構成済み」を選択します。

6. 「XSB の追加」ボタンをクリックします。

XSB がドメインに追加されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。

7. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。

▼ ドメインを再構成する

1. システムボードテーブルを表示し、そのプロパティーを確認します。

再構成するシステムボードを決定し、その「ドメインの割り当て」プロパティーの値を書き留めます。これが処理の対象ドメインになります。

2. 対象ドメインの電源を切ります。

a. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。

b. ドメインテーブルを右クリックします。

ポップアップメニューが表示されます。

c. 「ドメインの電源オフ」を選択します。

「電源オフ」確認ダイアログが表示されます。ダイアログに対象ドメインの名前が表示されます。

d. 「了解」ボタンをクリックします。

3. ドメインから XSB を削除します。

a. XSB テーブルを表示し、削除する最初の対象 XSB を選択します。

b. 対象 XSB が含まれる行を右クリックします。

ポップアップメニューが表示されます。

c. 「XSB の削除」を選択します。

「XSB の削除」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択されたボード」フィールドに表示されます。「現在の状態」ボックスに、現在の割り当てと構成の状態が表示されます。

d. 「XSB 削除後の状態」ボックスで、「割り当て解除」を選択します。

e. 「XSB の削除」ボタンをクリックします。

「XSB の削除」処理が実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。

f. 削除する XSB ごとに手順 a ～ e を繰り返します。

4. ドメインの LSB を消去します。

- a. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「LSB の消去」を選択します。
「LSB の消去」ダイアログが表示されます。対象のドメインが、「選択されたドメイン」フィールドに表示されます。
 - d. 「LSB の消去」メニューから、削除する最初の LSB を選択します。
 - e. 「LSB の消去」ボタンをクリックします。
「LSB の消去」処理が実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - f. LSB ごとに手順 e を繰り返します。
5. システムボードモードを「単一の XSB」に設定します。
- a. システムボードテーブルを表示し、対象システムボードの行を選択します。
 - b. システムボードテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「SB モードの設定」を選択します。
「SB モードの設定」ダイアログが表示されます。選択したシステムボードが「選択されたシステムボード」フィールドに表示され、現在の SB モードが「現在のモード」ボックスに表示されます。
 - d. 「SB モードの選択」ボックスで「単一の XSB」を選択します。
 - e. 「モードの設定」をクリックします。
「モードの設定」処理が実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - f. 「閉じる」ボタンをクリックします。
6. 対象 XSB を対象 LSB に割り当てます。
- a. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB を LSB に割り当て」を選択します。
「XSB を LSB に割り当て」ダイアログが表示されます。対象のドメインが、「選択されたドメイン」フィールドに表示されます。
 - d. 「LSB に割り当て」メニューから、対象 LSB を選択します。

- e. 「割り当てる XSB の選択」ボックスで対象の XSB ID を選択し、「割り当てのリストへの追加」をクリックして「LSB=XSB」リストに追加します。
 - f. 「XSB を割り当て」ボタンをクリックします。
割り当てが実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - g. 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。
7. 対象 XSB を対象ドメインに追加します。
- a. XSB テーブルを表示し、対象 XSB を選択します。
 - b. XSB テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「XSB の追加」を選択します。
「XSB の追加」ダイアログが表示されます。選択した XSB が、「選択されたボード」フィールドに表示されます。「現在の状態」ボックスに、現在の割り当てと構成の状態が表示されます。
 - d. 「XSB をドメインに追加」メニューから、対象ドメインを選択します。
 - e. 「XSB 追加後の状態」ボックスで「割り当て済み」を選択します。
 - f. 「XSB の追加」ボタンをクリックします。
「XSB の追加」処理が実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
 - g. 「閉じる」ボタンをクリックします。
8. ドメインの電源を入れます。
- a. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。
 - b. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
 - c. 「ドメインの電源オン」を選択します。
「電源オン」確認ダイアログが表示されます。ダイアログに対象ドメインの名前が表示されます。
 - d. 「了解」ボタンをクリックします。
9. ドメインテーブルのアイコンをダブルクリックし、そのプロパティを確認します。
再構成が正常に終了していることを確認します。

▼ XSB を移動する

1. ドメインテーブルを表示し、そのプロパティーを確認します。
対象ドメインを特定します。
2. XSB テーブルを表示し、対象ボードの行を選択します。
3. XSB テーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
4. 「XSB の移動」を選択します。
「XSB の移動」ダイアログが表示されます。対象の XSB が、「選択されたボード」フィールドに表示されます。「現在の状態」ボックスに、現在の割り当てと構成の状態が表示されます。
5. 「XSB をドメインに移動」メニューから、対象ドメインを選択します。
6. 「XSB 移動後の状態」ボックスで、「構成済み」を選択します。
7. 「XSB の移動」ボタンをクリックします。
「XSB の移動」処理が実装されます。進行状況に関する情報が進行状況ウィンドウに表示されます。
8. 「閉じる」ボタンをクリックします。
9. ドメインテーブルを表示し、そのプロパティーを確認します。
移動が正常に終了していることを確認します。

▼ 入出力ポートの電源を切断する

1. 対象入出力ポート内の PCI カードがすべてドメイン側から切り離されていることを確認します。
 - a. 次のいずれかの方法で PCI カードを切り離します。
 - ドメイン DR モジュールを使用して PCI カードを切り離します。詳細は、第 5 章を参照してください。
 - root で Solaris ドメインにログインします。次に、`cfgadm` コマンドを使用して PCI カードを切り離します。
 - b. ドメイン DR の接続点テーブルで「ソケット」プロパティーの値が `DISCONNECTED` であることを確認します。
2. 入出力ポートテーブルを表示し、対象入出力ポートの行を選択します。
3. 入出力ポートテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。

4. 「入出力ポートの電源オフ」を選択します。

「電源オフ」確認ダイアログが表示されます。ダイアログに対象入出力ポートの名前が表示されます。

注 – 「強制オプションを使用する」ボックスをクリックすると、ドメインで障害が発生する可能性があります。ドメインで入出力ポートを使用中に「強制オプションを使用する」を使用して入出力ポートの電源を切った場合、ドメインで障害が発生する可能性があります。障害を防止するには、入出力ポート上の PCI カードがすべてドメインから切り離されていることを確認してから、電源を切ります。

5. 「了解」ボタンをクリックします。

「電源オフ」処理が実装されます。

6. 入出力ポートテーブルをダブルクリックし、対象入出力ポートの行を選択します。

「電源オフ」処理が正常に終了した場合、対象入出力ポートの「取り外し可能 LED」プロパティの値が ON になります。

7. 入出力ポートテーブルを右クリックします。

ポップアップメニューが表示されます。

8. 「入出力ポートの位置 LED の設定」を選択します。

「入出力ポートの位置 LED の設定」ダイアログが表示されます。ダイアログに対象入出力ポートの名前が表示されます。

9. 「オン」を選択し、「了解」ボタンをクリックします。

位置 LED が起動され、ダイアログが閉じます。

サーバーハードウェアの操作と保守

▼ ドメインの電源を入れる

1. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。

2. ドメインテーブルを右クリックします。

ポップアップメニューが表示されます。

3. 「ドメインの電源オン」を選択します。

「電源オン」確認ダイアログが表示されます。ダイアログに対象ドメインの名前が表示されます。

4. 「了解」ボタンをクリックします。

▼ ドメインをリセットする

1. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。
2. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「ドメインのリセット」を選択します。
「ドメインのリセット」ダイアログが表示されます。ダイアログに対象ドメインの名前が表示されます。
4. ドメインをすぐにリセットするには、「POR」を選択し、「了解」をクリックします。

▼ ドメインの電源を切る

1. ドメインテーブルを表示し、対象ドメインの行を選択します。
2. ドメインテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「ドメインの電源オフ」を選択します。
「電源オフ」確認ダイアログが表示されます。ダイアログに対象ドメインの名前が表示されます。
4. 「了解」ボタンをクリックします。

FRU の交換

Sun Management Center を使用した FRU 交換は、ハイエンドサーバーだけでサポートされ、また次のボードだけを交換できます。

- システムボード
- CPU/メモリーユニットボード (CMU)
- 入出力ユニットボード (IOU)

FRU を交換するには、fieldeng 権限が必要です。サービスプロセッサでの権限の設定については、21 ページの「サービスプロセッサで権限をセットアップする」と setprivileges(8) のマニュアルページを参照してください。

▼ システムボードを交換する

1. サービスプロセッサで XSCF の `deleteboard` コマンドを使用して、交換対象のすべての拡張システムボードをすべてのドメインから切り離します。
コマンドの使用方法については、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのリファレンスマニュアル、または `deleteboard(8)` のマニュアルページを参照してください。
2. ドメインで `cfgadm` コマンドを使用して、対応する IOU 内の PCI カードをすべて切り離します。
詳細は、`cfgadm(1M)` のマニュアルページを参照してください。
3. システムボードテーブルを表示し、交換する対象システムボードの行を選択します。
4. システムボードテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
5. 「SB の交換」を選択します。
「SB の交換」ダイアログが表示されます。
6. 「SB の交換」ボタンをクリックして、交換処理を開始します。
「CMU の交換」ダイアログが表示されます。
7. CMU ボードを物理的に交換します。
交換の手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
8. 「CMU の交換」ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の交換」ダイアログに戻ります。
9. 「IOU の交換」ボタンをクリックします。
「IOU の交換」ダイアログが表示されます。
10. IOU ボードを物理的に交換します。
交換の手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
11. 「IOU の交換」ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の交換」ダイアログに戻ります。
12. 「SB の交換」ダイアログで、「確定」ボタンをクリックします。
13. 「閉じる」ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

▼ システムボードを削除する

1. サービスプロセッサで XSCF の `deleteboard` コマンドを使用して、削除対象のすべての拡張システムボード (XSB) をすべてのドメインから切り離します。
コマンドの使用方法については、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーのリファレンスマニュアル、または `deleteboard(8)` のマニュアルページを参照してください。
2. ドメインで `cfgadm` コマンドを使用して、対応する IOU 内の PCI カードをすべて切り離します。
詳細は、`cfgadm(1M)` のマニュアルページを参照してください。
3. システムボードテーブルを表示し、削除する対象システムボードの行を選択します。
4. システムボードテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
5. 「SB の削除」を選択します。
「SB の削除」ダイアログが表示されます。
6. 「SB の削除」ボタンをクリックして、削除処理を開始します。
「CMU の削除」ダイアログが表示されます。
7. CMU ボードを物理的に取り外します。
交換の手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
8. 「CMU の削除」ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の削除」ダイアログに戻ります。
9. 「IOU の削除」ボタンをクリックします。
「IOU の削除」ダイアログが表示されます。
10. IOU ボードを物理的に取り外します。
交換の手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
11. 「IOU の削除」ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の削除」ダイアログに戻ります。
12. 「SB の削除」ダイアログで、「確定」ボタンをクリックします。
13. 「閉じる」ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

▼ システムボードを追加する

1. システムボードテーブルを表示します。

2. システムボードテーブルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
3. 「SB の追加」を選択します。
「SB の追加」ダイアログが表示されます。
4. プルダウンメニューで、システムボードの追加先の場所を選択します。
5. 「SB の追加」ボタンをクリックします。
システムボードの追加処理が開始され、「CMU の追加」ダイアログが表示されます。
6. システムボードを物理的に追加します。
交換の手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
7. 「CMU の追加」ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の追加」ダイアログに戻ります。
8. 「IOU の追加」ボタンをクリックします。
IOU の追加処理が開始され、「IOU の追加」ダイアログが表示されます。
9. IOU を物理的に追加します。
交換の手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
10. 「IOU の追加」ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。
ダイアログが閉じ、「SB の追加」ダイアログに戻ります。
11. 「SB の追加」ダイアログで、「確定」ボタンをクリックします。
12. 「閉じる」ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

参考: プラットフォーム管理のプロパティと作業

この節では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの各プラットフォーム管理オブジェクトのテーブルに表示されるプロパティについて説明します。プロパティの値が -- (ハイフン 2 つ) または -1 の場合、プラットフォーム管理モジュールでそのプロパティのデータを取得できないことを示します。

各表には、関連するアラーム規則を示しています。アラーム規則については、第 6 章を参照してください。

この節では、各テーブルから対象システムのアクティブ管理に使用できるポップアップメニューについても説明しています。これらのポップアップメニューの使用方法については、44 ページの「プラットフォーム管理モジュールでのアクティブ管理の実行」を参照してください。

この節では、次のテーブルについて説明します。

- 57 ページの「システム」
- プラットフォーム表示のテーブル
 - 59 ページの「CPU/メモリーユニットボード」
 - 60 ページの「CPU モジュール」
 - 61 ページの「メモリーボード」
 - 62 ページの「メモリー DIMM」
 - 63 ページの「入出力ユニットボード」
 - 64 ページの「PCI スロット」
 - 65 ページの「システムボード」
 - 67 ページの「拡張システムボード」
 - 69 ページの「論理システムボード」
 - 70 ページの「システムコンポーネント」
 - 71 ページの「環境監視」
 - 71 ページの「ドメイン」
- 外部入出力のテーブル
 - 73 ページの「外部入出力拡張ユニットシャーシ」
 - 75 ページの「入出力ポート」
 - 76 ページの「リンクカード」
 - 77 ページの「外部入出力拡張ユニットの電源装置とファン」
 - 78 ページの「外部入出力拡張ユニットセンサー」
- ドメイン表示のテーブル
 - 79 ページの「ドメイン情報」
 - 81 ページの「システムボード」
 - 81 ページの「拡張システムボード」
 - 82 ページの「論理システムボード」

システム

表 3-1 に、対象サーバーのシステムプロパティの簡単な説明を示します。

表 3-1 プラットフォーム管理: システムテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ノード名		ノード名。値は <code>system</code> です。
プラットフォーム名		XSCF ファームウェア構成時にこのサーバーに割り当てられた名前。値の例: <code>chiron</code> 、 <code>balon</code>
プラットフォームの種類		プラットフォームの種類の識別子。値の例: <code>Sun SPARC Enterprise M4000</code>
シリアル番号		システムのシリアル番号。値の例: <code>FJ890023-020</code>
CPU 数		システム内の CPU チップ数。値の例: <code>1</code> 、 <code>2 ... 64</code>
メモリー容量		システム内の総メモリー容量 (G バイト単位)。
ドメイン数		システム内のドメイン数。最大値は、プラットフォームによって異なります。
電源 LED		主電源が入っているか、切れているかを示します。可能な値: <code>ON</code> 、 <code>OFF</code> 、 <code>BLINKING</code> 、 <code>UNKNOWN</code>
待機 LED		マシンがオンラインになっているかどうかを示します。可能な値: <code>ON</code> 、 <code>OFF</code> 、 <code>BLINKING</code> 、 <code>UNKNOWN</code>
検査 LED	<code>rLEDState</code>	保守が必要かどうかを示します。可能な値: <code>ON</code> 、 <code>OFF</code> 、 <code>BLINKING</code> 、 <code>UNKNOWN</code>
システム状態	<code>rErrorStatus</code>	総合的なシステム状態。可能な値: <code>NORMAL</code> 、 <code>DEGRADED</code> 、 <code>FAULTED</code> 、 <code>CHANGE</code> 、 <code>UNKNOWN</code>
ファームウェア状態	<code>rErrorStatus</code>	ファームウェアの状態。可能な値: <code>NORMAL</code> 、 <code>DEGRADED</code> 、 <code>FAULTED</code> 、 <code>CHANGE</code> 、 <code>UNKNOWN</code>
ハードウェアの状態	<code>rErrorStatus</code>	ハードウェアの状態。可能な値: <code>NORMAL</code> 、 <code>DEGRADED</code> 、 <code>FAULTED</code> 、 <code>CHANGE</code> 、 <code>UNKNOWN</code>
モード切り替え状態		モード切り替えの状態。可能な値: <code>LOCKED</code> 、 <code>SERVICE</code> 、 <code>UNKNOWN</code>

プラットフォーム表示のテーブル

プラットフォーム管理モジュールのプラットフォーム表示には、この項に示すテーブルが表示されます。「外部入出力」セクションのテーブルについては、73 ページの「外部入出力」を参照してください。

CPU/メモリーユニットボード

CMU ボードテーブルには、システム内の CPU/メモリーユニット (CMU) ボードの一覧が表示されます。エントリ数は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの種類によって異なります。表 3-2 に、各 CMU ボードについて表示される情報を示します。このテーブルの情報は、ハードウェアの物理/論理表示にも表示されます。

表 3-2 プラットフォーム管理: CMU ボードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		ボードのタイプと ID。値の例: CMU#00、PCMU#01
ボードの名前		CMU ボードの名前。
ボードの状態		CMU ボードの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
XSB モード		単一の XSB または 4 つの XSB のいずれかのモードを示します。可能な値: 1, 4
ドメインの割り当て		CMU が割り当てられているドメイン。XSB モードによっては、1 よりも大きな値となることがあります。値の例: 0, 1, 2, 3
COD 有効		CMU ボードが COD ボードであるかどうかを示します。可能な値: ENABLED、DISABLED
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。値の例: CMU

CMU ボードテーブルからはアクティブ管理が可能です。アクティブ管理はハイエンドサーバーだけでサポートされています。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-3 で説明しています。

注 – 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-3 プラットフォーム管理: CMU ボードテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
CMU の追加 ...	addfru	CMU を追加します。CMU の場所が空いている場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
CMU の削除 ...	deletefru	CMU を削除します。CMU ボードの状態プロパティの値が RUN ではない場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
CMU の交換 ...	replacefru	CMU を交換します。CMU ボードの状態プロパティの値が RUN ではない場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。

CPU モジュール

CPU モジュール (CPUM) テーブルには、システム内の CPUM の一覧が表示されます。各 CPU/メモリーユニットには最大 4 つの CPUM が含まれます。表 3-4 に、各 CPUM について表示される情報を示します。このテーブルの情報は、ハードウェアの物理/論理表示にも表示されます。

表 3-4 プラットフォーム管理: CPU モジュールテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		CMU と CPU のタイプと識別子を連結したもの。値の例: CMU#00/CPUM#00、PCMU#00/CPUM#01
CPU チップ番号		CPU チップ番号。値の例: CPUCHIP#00
親 CMU		この CPU モジュールが属する CMU。値の例: CMU#00、PCMU#01
CPU タイプ		CPU のタイプ。値の例: CPUM_A -12-2277

表 3-4 プラットフォーム管理: CPU モジュールテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
CPU 状態		CPU の状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
クロック周波数		CPU クロックの周波数。値の例: 2150, 2277
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。値の例: CPUM_A

メモリーボード

メモリーボードテーブルには、ミッドレンジサーバー内のメモリーボードの一覧が表示されます。表 3-5 に、各メモリーボードについて表示される情報を示します。注: このテーブルには、ミッドレンジサーバーの情報だけが表示されます。このテーブルの情報は、ハードウェアの物理/論理表示にも表示されます。

表 3-5 プラットフォーム管理: メモリーボードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		ボードのタイプと ID。値の例: PCMU#00/MEMB#00、PCMU#00/MEMB#01
親 CMU		このメモリーボードが属する CMU。値の例: PCMU#00、PCMU#01
メモリー容量		メモリーボード上のすべての DIMM の合計メモリー容量 (G バイト単位)。値の例: 8
状態		メモリーボードの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN

表 3-5 プラットフォーム管理: メモリーボードテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。値の例: FFMEMB

メモリー DIMM

メモリー DIMM テーブルには、サーバー内の DIMM モジュールの一覧が表示されます。表 3-6 に、各エントリについて表示される情報を示します。このテーブルの情報は、ハードウェアの物理/論理表示にも表示されます。

表 3-6 プラットフォーム管理: メモリー DIMM テーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		CMU と MEM のタイプと ID を連結したもの。値の例: CMU#00/MEM#00、CMU#00/MEM#01
親 CMU		この DIMM モジュールが属する CMU。値の例: CMU#00、CMU#01
メモリー容量		メモリー DIMM のサイズ (G バイト単位)。値の例: 2, 4
メモリー状態		メモリー DIMM モジュールの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN

表 3-6 プラットフォーム管理: メモリー DIMM テーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。

入出力ユニットボード

IOU ボードテーブルには、サーバー内の入出力ユニットボードの一覧が表示されます。表 3-7 に、各エントリについて表示される情報を示します。このテーブルの情報は、ハードウェアの物理/論理表示にも表示されます。

表 3-7 プラットフォーム管理: IOU ボードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		ボードのタイプと ID。値の例: IOU#00、IOU#01
ボードの名前		入出力ボードの名前。
ボードの状態		入出力ボードの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
XSB モード		単一の XSB または 4 つの XSB のいずれかのモードを示します。可能な値: 1, 4
ドメインの割り当て		IOU が割り当てられているドメイン。XSB モードによっては、1 よりも大きな値となることがあります。値の例: 0, 1, 2, 3
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。値の例: IOU

IOU ボードテーブルからはアクティブ管理が可能です。「IOU の追加」、「IOU の削除」、および「IOU の交換」の各メニュー項目は、ハイエンドサーバーだけでサポートされています。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-8 で説明しています。

注 – 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-8 プラットフォーム管理: IOU ボードテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
IOU の追加 ...	addfru	入出力ユニットを追加します。IOU のスロットが空いている場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
IOU の削除 ...	deletefru	入出力ユニットを削除します。IOU ボードの状態プロパティの値が RUN ではない場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
IOU の交換 ...	replacefru	入出力ユニットを交換します。IOU ボードの状態プロパティの値が RUN ではない場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。

PCI スロット

PCI スロットテーブルには、使用されているすべての PCI スロットの一覧が表示されます。表 3-9 に、各エントリについて表示される情報を示します。注: このテーブルの情報は、ハードウェアの物理/論理表示にも表示されます。

表 3-9 プラットフォーム管理: PCI スロットテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		IOU と PCI のタイプと ID を連結したもの。値の例: IOU#00/PCI#00、IOU#01/PCI#01
親 IOU		この PCI スロットが属する IOU。値の例: IOU#00、IOU#01
PCI 状態		PCI スロットの状態。可能な値: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN

表 3-9 プラットフォーム管理: PCI スロットテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。

システムボード

システムボードテーブルには、システム内のシステムボードの一覧が表示されます。表 3-10 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-10 プラットフォーム管理: システムボードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		一意の名前。値の例: SB#00、SB#01
ボードの状態		ボードの DR 状態。値の例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
XSB モード		単一の XSB または 4 つの XSB のいずれかのモードを示します。可能な値: 1, 4
ドメインの割り当て		ボードが属するドメインの一覧。XPAR モードがオフの場合、最大値は 1 です。XPAR モードがオンの場合、1 よりも大きな値となることがあります。値の例: 0, 1, 2, ..., 23, --
CMU ボード		システムボードの一部である CMU の名前 (タイプと ID)。値の例: CMU#00、CMU#01

表 3-10 プラットフォーム管理: システムボードテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
CMU エラー状態	rErrorStatus	システムボードの一部である CMU のエラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
IOU ボード		システムボードの一部である入出力ユニットボード。システムボードを構成する CMU と IOU ボードは 1 対 1 の関係にあります。値の例: IOU#01、IOU#02
IOU エラー状態	rErrorStatus	IOU のエラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN

システムボードテーブルからはアクティブ管理が可能です。「SB の追加」、「SB の削除」、および「SB の交換」の各メニュー項目は、ハイエンドサーバーだけでサポートされています。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-11 で説明しています。

注 – 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-11 プラットフォーム管理: システムボードテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
SB の追加...	addfrfu	システムボードを追加します。SB の場所が空いている場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
SB の削除...	deletefru	システムボードを削除します。システムボードの状態プロパティの値が RUN ではない場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
SB の交換...	replacefru	システムボードを交換します。システムボードの状態プロパティの値が RUN ではない場合にのみ表示されます。fieldeng 権限が必要です。
SB モードの設定...	setupfru	SB モードを設定します (x1 または x4)。
SB のテスト ...	testsb	SB の初期診断を実行します。

拡張システムボード

XSB テーブルには、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーシステム内の拡張システムボード (XSB) の一覧が表示されます。表 3-12 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-12 プラットフォーム管理: XSB テーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ID		XSB の識別子。値の例: 00-0, 02-3
状態		XSB の現在の状態。値の例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
エラー状態	rErrorStatus	XSB のエラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
ドメイン ID		XSB が属するドメインの識別子。値の例: 0, 1
DR 状態		XSB の DR 状態。可能な値: CONFIGURED、UNCONFIGURED、WAITING、DISCONNECTED、UNKNOWN XSB の追加などの DR 操作後の値 WAITING は、CONFIGURED 状態にまだ達していないことを示します。
電源		XSB の現在の電源設定。値の例: OFF、ON
テスト	rTestState	XSB のテストの結果を示します。可能な値: PASSED、FAILED、UNKNOWN、UNMOUNTED、TESTING
割り当て		XSB が割り当てられているかどうかを示します。可能な値: ASSIGNED、AVAILABLE、UNAVAILABLE
接続		XSB が接続されているかどうかを示します。値の例: CONNECTED、DISCONNECTED
構成		XSB が構成されているかどうかを示します。値の例: CONFIGURED、UNCONFIGURED

XSB テーブルからはアクティブ管理が可能です。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-13 で説明しています。

注 - 「中止」ボタンをクリックしても無視されます。

表 3-13 プラットフォーム管理: XSB テーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
XSB の追加 ...	addboard	選択した XSB をドメインに追加します。 「XSB 追加後の状態」のオプション: • ASSIGNED - XSB は指定のドメインに割り当てられます。割り当てられたシステムボードは、指定のドメイン用に予約されるので、ほかのドメインから割り込みまたは割り当てできません。システムボードの割り当て後、ドメインを再起動するか、CONFIGURED オプションを指定して「XSB の追加」操作を実行すると、システムボードが追加されます。 • CONFIGURED - XSB は指定のドメイン構成に追加されます。追加された XSB は、オペレーティングシステムからアクセスできるようになります。
XSB の削除 ...	deleteboard	選択した XSB をドメインから削除します。「割り当て」の値が UNAVAILABLE の場合は使用できません。 「XSB 削除後の状態」のオプション: UNASSIGNED - システムボードがドメイン構成から完全に切り離され、システムボードのプールに入れられます。システムボードのプールに入れられたシステムボードは、ほかのドメインに追加または割り当てできるようになります。 DISCONNECTED - システムボードがドメイン構成から切り離され、状態が ASSIGNED に変わります。システムボードはまだドメインに割り当てられているので、ドメインを再起動するか、「XSB の追加」ダイアログを使用することで、同じドメイン構成に再び追加できます。 RESERVED - ドメイン構成からのシステムボードの切り離しが保留され、切り離しの予約だけが行われます。予約されたシステムボードは、ドメインの電源を切ったときに切り離され、システムボードのプールに入れられます。

表 3-13 プラットフォーム管理: XSB テーブルのポップアップメニュー (続き)

メニュー項目	同等のコマンド	説明
XSB の移動 ...	moveboard	選択した XSB を新しいドメインに移動します。「割り当て」の値が UNAVAILABLE の場合は使用できません。 「XSB 移動後の状態」のオプション: ASSIGNED - XSB を移動先のドメイン構成に割り当てます。割り当てられた XSB は、そのあと、指定のドメイン用に予約され、ほかのドメインに追加または割り当てできなくなります。XSB の割り当て後、ドメインを再起動するか、「XSB の追加」ダイアログで CONFIGURED オプションを使用すると、XSB がドメインに追加されます。 CONFIGURED - XSB を移動先のドメイン構成に追加します。追加された XSB は、オペレーティングシステムからアクセスできるようになります。 RESERVED - XSB をドメイン構成からすぐに移動せずに、XSB の移動の予約だけが行われます。予約された XSB は、ドメインの電源を切ったときにドメインから切り離され、新しいドメインの電源を入れたときに移動先ドメインに追加されます。

論理システムボード

論理システムボード (LSB) テーブルには、システム内の LSB の一覧が表示されます。各ドメインには 16 枚の LSB が含まれます。したがって、テーブル内の行数は、ドメインの数×16 です。表 3-14 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-14 プラットフォーム管理: LSB テーブル

属性	アラーム 規則 (該当 する場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの識別子。値は 0 ～ 23 の範囲内です。値の例: 0, 1
LSB ID		LSB の識別子。値の例: 0, 10, 15
XSB ID		この LSB に関連付けられている XSB の識別子。値の例: 01-2, 00-1

表 3-14 プラットフォーム管理: LSB テーブル (続き)

属性	アラーム 規則 (該当 する場合)	説明
メモリーなし		ドメインでのメモリーの使用を省くかどうかを示します。可能な値: ON、OFF
入出力なし		ドメインでの入出力デバイスの使用を省くかどうかを示します。可能な値: ON、OFF
浮動ボード		このボードを浮動ボードとしてほかのボードよりも優先させるかどうかを示します。可能な値: ON、OFF

システムコンポーネント

システムコンポーネントテーブルには、共通のプロパティを共有し、表 3-1 ～表 3-14 にない現場交換可能ユニット (FRU) が表示されます。このテーブルには、次のシステムコンポーネントが表示されます。

- 電源装置
- ファントレー
- クロスバーボードユニット
- クロックボード (ハイエンドサーバーのみ)
- XSCF ボード
- 背面パネル (ハイエンドサーバーのみ)

表 3-15 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-15 プラットフォーム管理: システムコンポーネントテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		コンポーネントのタイプと ID。値の例: PSU#00、XSCFA#01
状態		コンポーネントの状態。値の例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN

表 3-15 プラットフォーム管理: システムコンポーネントテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
製品名		FRU の製品名。

環境監視

環境監視テーブルには、温度、電流、および電圧情報の環境プローブに関する情報が表示されます。表 3-16 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-16 プラットフォーム管理: 環境監視テーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		環境プローブの場所。値の例: CMU#00、CMU#00/CPUM#00
説明		環境プローブの説明。値の例: CPUM CHIP 0、1.2V
値		センサーによって計測された現在の値。
単位		「値」の値の単位。値の例: mV、C (摂氏)
状態	rValidStatus	環境プローブの状態。可能な値: INVALID、VALID、UNKNOWN
値の状態	rErrorStatus	センサーによって計測された現在の値の状態。可能な値: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN

ドメイン

ドメインテーブルには、既存するすべてのドメインに関する情報が表示されます。表 3-17 に、システム内の各ドメインについて表示される情報を示します。

表 3-17 プラットフォーム管理: ドメインテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの一意の識別子。値の例: 0, 1, 2 ... 31
ドメイン名		ドメインの名前。値の例: col2-45、tokyo32
OS のリリース		オペレーティングシステムのリリースの識別子。値の例: 5.10
OS のバージョン		オペレーティングシステムのバージョンの識別子。値の例: Generic_118833-29
CPU 数		ドメイン内の CPU ストランド数。CPU チップあたり 4 つのストランドがあります。値の例: 1, 2 ... 64
メモリー容量		ドメイン内のメモリー容量 (G バイト単位)。値の例: 0, 64
状態	rDomainStatus	ドメインの状態。可能な値: POWER OFF、PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、UNKNOWN
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
構成ポリシー		ハードウェアの初期診断時にハードウェアエラーが検出された場合の機能低下領域の構成ポリシー。値の例: COMPONENT、XSB、SYSTEM
ドメインテーブルからはアクティブ管理が可能です。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-18 で説明しています。		
注 – 「中止」 ボタンをクリックしても無視されます。		

表 3-18 プラットフォーム管理: ドメインテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
LSB の消去...	setdcl	ドメインのドメインコンポーネントリスト内の LSB 構成値を消去します。
LSB 構成のセットアップ...	setdcl	ドメインのドメインコンポーネントリスト内の LSB 構成値をセットアップします。
XBS を LSB に割り当て...	setdcl	ドメインのドメインコンポーネントリスト内で XSB を LSB に割り当てます。
ドメインの電源オン...	poweron	ドメインの電源を入れます。ドメインの状態の値が次のいずれかの場合は使用できません。PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、または UNKNOWN
すべてのドメインの電源オン...	poweron	電源が切れているすべてのドメインの電源を入れます。
ドメインの電源オフ...	poweroff	ドメインの電源を切ります。ドメインの状態の値が POWER OFF の場合は使用できません。
すべてのドメインの電源オフ...	poweroff	電源が入っているすべてのドメインの電源を切ります。
ドメインのリセット...	reset	ドメインをリセットします。

外部入出力

プラットフォーム管理モジュールの「外部入出力」セクションには、この項に示すテーブルが表示されます。このセクションは、プラットフォーム表示セクション内に階層的に入れ子になっています。外部入出力拡張ユニットに関する情報は、外部入出力拡張ユニットがシステムに設置されている場合にのみ表示されます。

外部入出力拡張ユニットシャーシ

入出力ボックスシャーシテーブルには、利用可能なすべての外部入出力拡張ユニットに関する一般情報が表示されます。表 3-19 に、システム内の各外部入出力拡張ユニットについて表示される情報を示します。

表 3-19 プラットフォーム管理: 入出力ボックスシャーシテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ID		外部入出力拡張ユニットの一意の識別子。値の例: XCX01U
位置 LED		入出力外部拡張ユニットの場所を視覚的に特定するための位置 LED。値の例: ON、OFF
温度超過 LED	rIoBoxLEDState	温度が高すぎるかどうかを示す LED。可能な値: OFF、BLINK FAST、BLINK SLOW、FEEDBACK FLASH、ON、STANDBY BLINK、UNKNOWN
保守要求 LED	rIoBoxLEDState	保守が必要かどうかを示す LED。可能な値: OFF、BLINK FAST、BLINK SLOW、FEEDBACK FLASH、ON、STANDBY BLINK、UNKNOWN
アクティブ LED		入出力処理が行われていることを示す LED。可能な値: OFF、BLINK FAST、BLINK SLOW、FEEDBACK FLASH、ON、STANDBY BLINK、UNKNOWN
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

入出力ボックスシャーシテーブルからはアクティブ管理が可能です。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-20 で説明しています。

表 3-20 プラットフォーム管理: 入出力ボックスシャーシテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
入出力ボックスの位置 LED の設定	<code>ioxadm locator {on off} target</code>	位置 LED の状態を変更します。
...		

入出力ポート

入出力ポートテーブルには、システム内のすべての入出力ポートに関する一般情報が表示されます。表 3-21 に、システム内の各入出力ポートについて表示される情報を示します。

表 3-21 プラットフォーム管理: 入出力ポートテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ボックス ID		外部入出力拡張ユニットの一意の識別子。値の例: XCX01U
ポート ID		入出力ポートの識別子。値の例: 1
ポートの位置		外部入出力拡張ユニットで、入出力ポートがある側。可能な値: LEFT、RIGHT
ポートの種類		ボードの種類。値の例: PCIE、PCIX
取り外し可能 LED	rOKtoRemoveLED	ポートが取り外し可能かどうかを示す LED。値の例: OFF、ON
保守要求 LED	rIoBoxLEDState	保守が必要かどうかを示します。値の例: ON、OFF
アクティブ LED		入出力処理が行われていることを示す LED。値の例: ON、OFF、STANDBY BLINK.
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

入出力ポートテーブルからはアクティブ管理が可能です。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-22 で説明しています。

表 3-22 プラットフォーム管理: 入出力ポートテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
入出力ポートの電源オン...	<code>ioxadm poweron target</code>	入出力ポートの電源を入れます。「取り外し可能 LED」の値が OFF の場合には使用できません。
入出力ポートの電源オフ...	<code>ioxadm [-f] poweroff target</code>	入出力ポートの電源を切り、ホストシャーシの取り外し可能 LED を点灯します。入出力ポート内の PCI スロットとコンポーネントは電源が切断されます。ドメインに含まれる入出力ポートは、「強制オプションを使用する」を選択すると電源を切断できますが、その結果、ドメインで障害が発生する可能性があります。「取り外し可能 LED」の値が ON の場合には使用できません。
入出力ポートの位置 LED の設定 ...	<code>ioxadm locator {-off -on} target</code>	位置 LED の状態を変更します。

リンクカード

リンクカードテーブルには、システム内のすべてのリンクカードに関する一般情報が表示されます。表 3-23 に、システム内の各リンクカードについて表示される情報を示します。

表 3-23 プラットフォーム管理: リンクカードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ボックス ID		外部入出力拡張ユニットの一意の識別子。値の例: XCX01U
ポート ID		入出力ポートの識別子
リンクカード ID		リンクカードの識別子
データ LED	rLinkCardLEDState	データ LED。可能な値: ON、OFF、STANDBY BLINK、BLINK SLOW、BLINK FAST、FEEDBACK FLASH、UNKNOWN
管理 LED	rLinkCardLEDState	管理 LED。可能な値: ON、OFF、STANDBY BLINK、BLINK SLOW、BLINK FAST、FEEDBACK FLASH、UNKNOWN

表 3-23 プラットフォーム管理: リンクカードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ダウンリンクカード位置		ダウンリンクカードの位置。
ダウンリンクカード ID		ダウンリンクカードの識別子。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

外部入出力拡張ユニットの電源装置とファン

入出力ボックス電源装置とファンテーブルには、外部入出力拡張ユニット内のすべての電源装置とファントレーに関する情報が表示されます。表 3-24 に、システム内の各外部入出力拡張ユニットについて表示される情報を示します。

表 3-24 プラットフォーム管理: 入出力ボックス電源装置とファンテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ボックス ID		外部入出力拡張ユニットの一意の識別子。値の例: XCX01U
ID		入出力ボートの識別子。
場所		外部入出力拡張ユニットの電源装置とファンの場所。
取り外し可能 LED	rOKtoRemoveLED	取り外し可能 LED の状態。値の例: ON、OFF、UNKNOWN
保守要求 LED	rIoBoxLEDState	保守要求 LED の状態。値の例: ON、OFF、UNKNOWN
AC 電源 LED		AC 電源 LED。
DC 電源 LED		DC 電源 LED。
パーツ番号		FRU のパーツ番号。
シリアル番号		FRU のシリアル番号。
ダッシュレベル		ダッシュレベル。

入出力ボックス電源装置とファンテーブルからはアクティブ管理が可能です。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-25 で説明しています。

表 3-25 プラットフォーム管理: 入出力ボックス電源装置とファンテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
入出力ボックス PSU の電源オン...	<code>ioxadm poweron target</code>	以前に休眠状態または「取り外し可能」にされた電源装置の電源を入れます。「取り外し可能 LED」の値が OFF の場合には使用できません。
入出力ボックス PSU の電源オフ...	<code>ioxadm [-f] poweroff target</code>	入出力ポートの電源を切り、取り外し可能 LED を点灯します。電源装置の電源を切っても、対応するファンは動作を続ける場合があります。「取り外し可能 LED」の値が ON の場合には使用できません。 注: 同じ外部入出力拡張ユニットの両方の PSU の電源を同時に切った場合、ユニットの電源を入れるには、物理的にユニットの電源を入れる必要があります。ユニットから単独の PSU を取り外すには「強制オプションを使用する」を選択する必要があります。
入出力ボックス PSU の位置 LED の設定...	<code>ioxadm locator {-off -on} target</code>	位置 LED の状態を変更します。

外部入出力拡張ユニットセンサー

入出力ボックスセンサーテーブルには、外部入出力拡張ユニット内のすべてのセンサーに関する情報が表示されます。表 3-26 に、システム内の各外部入出力拡張ユニットセンサーについて表示される情報を示します。

表 3-26 プラットフォーム管理: 入出力ボックスセンサーテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ボックス ID		外部入出力拡張ユニットの一意の識別子。値の例: XCX01U
センサー ID		センサーの識別子。
値	rIoBoxSensor	センサーによって計測された現在の値。
単位		「値」の値の単位。

表 3-26 プラットフォーム管理: 入出力ボックスセンサーテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
有効なアラーム		アラームを通知するように監視されている値を示します。可能な値: MIN、MAX、BOTH、NONE
最小アラームしきい値		この最小しきい値に満たない値が検出されるとアラームが発生します。「値」プロパティのアラーム規則で使用されます。
最大アラームしきい値		この最大しきい値を超える値が検出されるとアラームが発生します。「値」プロパティのアラーム規則で使用されます。

ドメイン表示

ドメイン表示オブジェクトには、システム内の各ドメインに固有の情報が表示されます。各ドメイン表示に表示されるテーブルは、プラットフォーム表示に表示されるテーブルのサブセットです。この項では、任意のドメインのドメイン表示の内容について説明します。

ドメイン情報

ドメインテーブルには、ドメイン表示の対象ドメインに関する情報が表示されます。表 3-27 に、対象ドメインについて表示される情報を示します。

表 3-27 ドメイン表示: ドメインテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの一意の識別子。値の例: 0, 1, 2 ... 31
ドメイン名		ドメインの名前。値の例: col2-45、tokyo32
OS のリリース		オペレーティングシステムのリリースの識別子。値の例: 5.10
OS のバージョン		オペレーティングシステムのバージョンの識別子。値の例: Generic_118833-29

表 3-27 ドメイン表示: ドメインテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
CPU 数		ドメイン内の CPU 数。値の例: 1, 2 ... 64
メモリー容量		ドメイン内のメモリー容量 (G バイト単位)。値の例: 64.
状態	rDomainStatus	ドメインの状態。可能な値: POWER OFF、PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、UNKNOWN
エラー状態	rErrorStatus	エラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
構成ポリシー		構成ポリシー。値の例: COMPONENT、XSB、SYSTEM

ドメインテーブルのドメイン表示からは一部のアクティブ管理が可能です。このテーブルのポップアップメニューの項目については、表 3-28 で説明しています。

表 3-28 ドメイン表示: ドメインテーブルのポップアップメニュー

メニュー項目	同等のコマンド	説明
ドメインの電源オフ...	poweroff	ドメインの電源を切ります。ドメインの状態プロパティの値が POWER OFF の場合は使用できません。
ドメインの電源オン...	poweron	ドメインの電源を入れます。ドメインの状態プロパティの値が次のいずれかの場合は使用できません。PANIC、SHUTDOWN、INITIALIZE、BOOT、RUNNING、PROM、CHANGE、または UNKNOWN
ドメインのリセット...	reset	ドメインをリセットします。可能なリセットレベル: • パワーオンリセット (POR) - ドメインシステムをすぐにリセットします。 • 要求 (パニック命令) - ドメインのオペレーティングシステムにパニックを命令します。電源切断中またはドメインの停止中は無視されます。 • 外部強制リセット (XIR) - ドメインの CPU をリセットします。

システムボード

システムボードテーブルには、ドメイン表示の対象ドメイン内のシステムボードの一覧が表示されます。表 3-29 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-29 ドメイン表示: システムボードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
名前		一意の名前。値の例: SB#00、SB#01
ボードの状態		ボードの DR 状態。値の例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
XSB モード		単一の XSB または 4 つの XSB のいずれかのモードを示します。可能な値: 1, 4
ドメインの割り当て		ボードが属するドメインの一覧。XPAR モードがオフの場合、最大値は 1 です。XPAR モードがオンの場合、1 よりも大きな値となることがあります。値の例: 0、1、2、...、23、SP
CMU ボード		システムボードの一部である CMU の名前 (タイプと ID)。値の例: CMU#00、CMU#01
CMU エラー状態	rErrorStatus	システムボードの一部である CMU のエラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
IOU ボード		システムボードの一部である IOU ボード。システムボードを構成する CMU と IOU は 1 対 1 の関係にあります。値の例: IOU#01、IOU#02
IOU エラー状態	rErrorStatus	IOU のエラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN

拡張システムボード

拡張システムボード (XSB) テーブルには、ドメイン内の XSB の一覧が表示されます。表 3-30 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-30 ドメイン表示: XSB テーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ID		XSB の識別子。値の例: 00-0, 01-0, 01-1, 01-2, 01-3
状態		XSB の現在の状態。値の例: UNMOUNTED、STOP、INIT、NOT CONFIGURED、IDLE、RUN、DECONFIGURED、CHANGE、UNKNOWN
エラー状態	rErrorStatus	XSB のエラー状態。値の例: NORMAL、DEGRADED、FAULTED、CHANGE、UNKNOWN
ドメイン ID		XSB が属するドメインの識別子。値の例: 0, 1
DR 状態		XSB の DR 状態。値の例: CONFIGURED、UNCONFIGURED、UNKNOWN
電源		XSB の現在の電源設定。値の例: OFF、ON
テスト	rTestState	XSB のテストの結果を示します。可能な値: PASSED、FAILED、UNKNOWN、UNMOUNTED、TESTING
割り当て		XSB が割り当てられているかどうかを示します。値の例: UNAVAILABLE、AVAILABLE、ASSIGNED
接続		XSB が接続されているかどうかを示します。値の例: CONNECTED、DISCONNECTED
構成		XSB が構成されているかどうかを示します。値の例: CONFIGURED、UNCONFIGURED

論理システムボード

論理システムボード (LSB) テーブルには、ドメイン表示の対象ドメイン内の 16 枚の LSB が表示されます。表 3-31 に、各エントリについて表示される情報を示します。

表 3-31 ドメイン表示: LSB テーブル

属性	アラーム 規則 (該当 する場合)	説明
ドメイン ID		ドメインの識別子。値は 0 ～ 23 の範囲内 です。値の例: 0, 1
LSB ID		LSB の識別子。値の例: 0, 9, 15
XSB ID		この LSB に関連付けられている XSB の 識別子。値の例: 00-3, 01-2
メモリーなし		ドメインでのメモリーの使用を省くかど うかを示します。可能な値: ON、OFF
入出力なし		ドメインでの入出力デバイスの使用を省 くかどうかを示します。可能な値: ON、 OFF
浮動ボード		このボードを浮動ボードとしてほかの ボードよりも優先させるかどうかを示し ます。可能な値: ON、OFF

「ハードウェア」タブについて

プラットフォームの「詳細」ウィンドウでは、「ハードウェア」タブから次の 2 種類の表示にアクセスできます。

- 物理表示
- 論理表示

物理表示

物理表示は、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの写実的な表示です。物理表示には、シャーシ内で実際に見えるコンポーネントだけが表示されます。シャーシ内で見えないデバイスに関する情報を表示するには、論理表示またはモジュールブラウザの表示を確認します。

論理表示

論理表示は、エンティティ内のボードとコンポーネントの階層表示です。シャーン内で物理的に見えるボードやコンポーネントだけが表示される物理表示とは異なり、論理表示には、すべてのボードとコンポーネントが表示されます。

「ハードウェア」タブの各表示へのアクセス

▼ 物理表示にアクセスする

プラットフォームの写実的な表示にアクセスするには、次の手順に従います。

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューの「物理表示」の下でプラットフォームを選択します。
4. 「現表示を回転」プルダウンメニューで、「システム - 正面」を選択してプラットフォームの正面を表示します。

物理表示の操作については、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

▼ 論理表示にアクセスする

プラットフォームの論理表示には、サーバー全体に接続されているすべてのボードとコンポーネントの階層が表示されます。プラットフォームの階層表示にアクセスするには、次の手順に従います。

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューの「論理表示」の下でプラットフォームを選択します。
4. 「すべてを開く」ボタンをクリックし、左側の区画のオブジェクトをクリックして論理表示を表示します。

論理表示の操作については、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

第4章

ドメイン管理

この章では、ドメイン管理モジュール「ドメイン構成リーダー SPARC Enterprise Mx000」について説明します。この章は次の節から構成されます。

- 87 ページの「ドメイン管理モジュールについて」
- 88 ページの「ドメイン管理モジュールへのアクセス」
- 89 ページの「参考: ドメイン管理のプロパティ」
 - 89 ページの「システム」
 - 90 ページの「論理システムボード」
 - 90 ページの「PCI カード」
 - 91 ページの「プロセッサ」
 - 92 ページの「メモリコントローラ」
 - 93 ページの「ディスクデバイス」
 - 94 ページの「テープデバイス」
 - 94 ページの「ネットワークインタフェース」

ドメイン管理モジュールについて

ドメイン管理モジュールは、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバー上のドメインに関する情報を提供します。このモジュールは、モジュール名「ドメイン構成リーダー SPARC Enterprise Mx000」というアイコンで表されます。

ドメイン管理モジュールへのアクセス

▼ ドメイン管理モジュールにアクセスする

1. プラットフォームの「詳細」ウィンドウを表示します。

メインコンソールウィンドウから、次のいずれかの方法で、対象プラットフォームの「詳細」ウィンドウを開きます。

- サーバーのアイコンをダブルクリックします。
- サーバーのアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの「詳細」を選択します。
- サーバーのアイコンを選択し、「ツール」メニューから「詳細」を選択します。

プラットフォームの「詳細」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、ウィンドウに「モジュールブラウザ」タブが開きます。

2. ドメイン管理モジュールを展開します。

「詳細」ウィンドウ内に「ハードウェア」アイコンがあります。次のいずれかの方法でアイコンを展開するか、開きます。

- モジュールのアイコンの左側にある展開アイコンをクリックします。
「ハードウェア」アイコンが左側の区画で展開され、「ドメイン構成リーダー SPARC Enterprise Mx000」というドメイン管理のアイコンが表示されます。
- モジュールのアイコンをダブルクリックします。
「ハードウェア」アイコンが左側の区画で展開され、ドメイン管理モジュールのアイコンが表示されます。モジュールのアイコンは右側の区画にも表示されます。

これで、左側の区画にドメイン管理モジュールが表示されるか、右側の区画にその内容が表示されます。

3. テーブルを参照し、ドメインを監視します。

手順 2 に示す方法で、テーブルに表示されるプロパティを参照します。

モジュール内の各テーブルについては、後述の「参考」内の各節を参照してください。

参考: ドメイン管理のプロパティー

この節では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーの各ドメイン管理オブジェクトに対してテーブルに表示されるプロパティーについて説明します。プロパティーの値が -- (ハイフン 2 つ) または -1 の場合、ドメイン管理モジュールではそのプロパティーのデータを取得できません。

この節では、次のテーブルについて説明します。

- 89 ページの「システム」
- 90 ページの「論理システムボード」
- 90 ページの「PCI カード」
- 91 ページの「プロセッサ」
- 92 ページの「メモリコントローラ」
- 93 ページの「ディスクデバイス」
- 94 ページの「テープデバイス」
- 94 ページの「ネットワークインタフェース」

システム

表 4-1 に、ドメインのシステムプロパティーの簡単な説明を示します。

表 4-1 ドメイン管理: システムテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ノード名		ノード名。値は system です。
ホスト名		ドメインのホスト名。
ホスト ID		ホストの識別番号。
オペレーティングシステム		オペレーティングシステム。値の例: SunOS5.10
OS のバージョン		オペレーティングシステムのバージョン。
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャー。値の例: sparc
最終更新日時		構成情報が最後に更新された日時。

表 4-1 ドメイン管理: システムテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
総ディスク数		ディスクの合計数。
総プロセッサ数		CPU プロセッサ数。
総テープデバイス数		テープデバイス数。

論理システムボード

表 4-2 に、ドメイン内のすべての論理システムボードのプロパティの説明を示します。

表 4-2 ドメイン管理: 論理システムボードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
LSB ID		FRU ID (スロット ID) を含む論理システムボードの識別子。
浮動ボード		LSB が浮動ボードかどうかを示します。 可能な値: Yes、No
プロセッサリスト		論理システムボード上のプロセッサのコマ区切りの識別子一覧。

PCI カード

表 4-3 に、ドメイン内のすべての PCI カードのプロパティの説明を示します。

表 4-3 ドメイン管理: PCI カードテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
カード ID		FRU ID (スロット ID) を含む PCI カードの識別子。
デバイスパス		デバイスへのパス。値の例: /pci@0,600000/pci@0/scsi@1
デバイスタイプ		デバイスタイプ。値の例: scsi-2、network
デバイスクラス		デバイスクラス。値の例: Mass Storage Controller (SCSI)、Network Controller (Ethernet)。
クロック周波数		メガヘルツ (MHz) 単位のデバイスのクロック周波数。
名前		PCI カード名。値の例: scsi、network
リビジョン ID		カードのリビジョン識別子。
製造元		カードの製造元。
ベンダー ID		ベンダーの識別子。値の例: 4096, 5348。
モデル		カードのモデル識別子。
バージョン		カードのバージョン。

プロセッサ

表 4-4 に、ドメイン内のすべてのプロセッサのプロパティの説明を示します。

表 4-4 ドメイン管理: プロセッサテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
プロセッサ ID		FRU ID (スロット ID) を含むプロセッサの識別子。
主要な状態	oplCPUstatus	プロセッサの現在の状態。可能な値: ONLINE、OFFLINE、POWEROFF、UNKNOWN
プロセッサ番号		プロセッサ番号。

表 4-4 ドメイン管理: プロセッサテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
モジュールリビジョン		プロセッサのモジュールリビジョン識別子。
製造元		プロセッサの製造元識別子。
SPARC バージョン		SPARC バージョンの識別子。
クロック周波数 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位のプロセッサのクロック周波数。
L1 I キャッシュサイズ		L1 命令キャッシュサイズ (K バイト単位)。
L1 D キャッシュサイズ		L1 データキャッシュサイズ (K バイト単位)。
L2 キャッシュサイズ		L2 外部キャッシュサイズ (K バイト単位)。

メモリコントローラ

表 4-5 に、ドメイン内のすべてのメモリコントローラのプロパティの説明を示します。

表 4-5 ドメイン管理: メモリーコントローラテーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
メモリコントローラ		ID (スロット ID) を含むメモリーコントローラ識別子。
CS0 状態	oplStateCheck	CS0 の POST 状態を示します。可能な値: UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED
CS0 使用可能なメモリー		CS0 の使用可能なメモリー (整数)。
CS0 DIMM 容量		CS0 の DIMM 容量 (整数)。
CS0 DIMM 数		CS0 の DIMM 数 (整数)。
CS1 状態	oplStateCheck	CS1 の POST 状態を示します。可能な値: UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED

表 4-5 ドメイン管理: メモリーコントローラテーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
CS1 使用可能なメモリー		CS1 の使用可能なメモリー (整数)。
CS1 DIMM 容量		CS1 の DIMM 容量 (整数)。
CS1 DIMM 数		CS1 の DIMM 数 (整数)。

ディスクデバイス

表 4-6 に、ドメイン内のすべてのディスクデバイスのプロパティの説明を示します。

表 4-6 ドメイン管理: ディスクデバイステーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ディスク ID		ディスクデバイスの識別子。形式は <code>disk(xtydz)</code> 。ここで <i>x</i> は PCI コントローラ番号 (0 または 1)、 <i>y</i> はターゲット番号、 <i>z</i> は論理ユニット番号です。値の例: <code>c0t4d0</code> 。ディスクにポートが 2 つある場合は、2 つのディスクデバイス識別子がコンマで区切られます。
カード ID		カードの識別子。
パス		ディスクデバイスへの物理パス。値の例: <code>/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/sd@0,0, ...1,0</code> 、または <code>6,0</code>
ブロックサイズ		ディスクをパーティションに分割したときに確立されたブロックサイズ。
ブロック数		ファイルシステムに割り当てられたブロック数。
使用可能なブロック数		ファイルシステムで使用可能な未使用のブロック数。
ファイル数		ファイルシステムに存在するファイル数。
使用可能なファイル数		ファイルシステムで使用可能な未使用のファイル数。
状態		ディスクの状態。可能な値: OK、または発生した問題を示す FAIL などのメッセージ。

表 4-6 ドメイン管理: ディスクデバイステーブル (続き)

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ハードウェアエラー	oplDskErrCnt	ハードウェア関連エラーの数。
ソフトウェアエラー	oplDskErrCnt	ソフトウェア関連エラーの数。
トランスポートエラー数	oplDskErrCnt	トランスポート関連エラーの数。

テープデバイス

表 4-7 に、ドメイン内のすべてのテープデバイスのプロパティの説明を示します。

表 4-7 ドメイン管理: テープデバイステーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
テープ ID		テープデバイスの識別子。テープデバイスの標準の命名規則に従います。値の例: tape (0)
カード ID		カードの識別子。
パス		テープデバイスへの物理パス。値の例: /devices/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/st@4,0
デバイス名		テープデバイスの識別子。値の例: HP DDS-3 4MM DAT
状態		テープデバイスの状態。可能な値: OK、または発生した問題を示すメッセージ。
テープエラー数	oplTpeErrCnt	syslog ファイルに記録されたテープエラー数 (整数)。

ネットワークインタフェース

表 4-8 に、ドメイン内のすべてのネットワークインタフェースのプロパティの説明を示します。

表 4-8 ドメイン管理: ネットワークインタフェーステーブル

属性	アラーム規則 (該当する場合)	説明
ネットワーク ID		ネットワークインタフェースの識別子。 値の例: <code>network(hme0)</code> 、 <code>network(scman1)</code> 、 <code>network(scman1:1)</code>
記号名		ネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名。
Ethernet アドレス		ネットワークインタフェースの Ethernet アドレス。
IP アドレス		ネットワークインタフェースの IP アドレス。
状態		ネットワークインタフェースの状態。可能な値: OK または空白
ネットワークエラー		ネットワークエラーメッセージ。ネットワークエラーメッセージは、システムで、ネットワークインタフェースのプロパティに関する情報を取得できないか、エラーコードを取得した場合に表示されます。

第5章

ドメインの動的再構成

この章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインから、Sun Management Center コンソールとドメイン動的再構成モジュール「Domain DR SPARC Enterprise Mx000」を使用して、動的再構成 (DR) の操作を行う方法について説明します。動的再構成の操作は、PCI カードと PCI カードスロットだけが対象です。

ドメイン DR 操作を行う前に

Sun Management Center の GUI を使用して DR 操作を行う前に、DR 操作について理解する必要があります。Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバードメインでの DR 操作については、次のドキュメントを参照してください。

- `cfgadm(1M)` のマニュアルページ。ドメイン DR モジュールで使用されるコマンドについて説明しています。
- Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Dynamic Reconfiguration (DR) User's Guide

DR モジュールについて

Domain DR SPARC Enterprise Mx000 モジュールを使用すると、入出力カード/デバイステーブルに表示される接続点を通して、ドメインに対する動的再構成操作を行うことができます。操作は、Sun Management Center コンソールのみを使用して、`cfgadm(1M)` コマンドを使用した場合と同じように行うことができます。

このモジュールを初めて使用するときは、モジュールをインストールし、ロードする必要があります。必要な場合は、モジュールをアンロードできます。Sun Management Center のモジュールのロードとアンロードについては、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

注 – ドメイン DR モジュールをアンインストールし、再インストールするには、現在ロードされているモジュールを先にアンロードする必要があります。「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブでのモジュールのロードとアンロードについては、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

モジュール「Domain DR SPARC Enterprise Mx000」のアイコンは、ドメインのホストの「詳細」ウィンドウで、「モジュールブラウザー」タブと「ハードウェア」アイコンの下に表示されます。

ドメイン DR 操作について

DR 操作のポップアップメニューは、ほかのドメイン操作と同じ方法で表示します。表示するには、管理対象オブジェクトの適切なテーブルを右クリックします。オブジェクトの現在の状況によって、メニューに表示されるオプションが異なります。たとえば、PCI カードが PCI バスに接続されている場合は、メニューに「接続解除」オプションが表示されます。PCI カードスロットが PCI バスに接続されていない場合は、メニューに「接続」オプションが表示されます。

ドメイン DR 操作の実行

この項では、ドメイン DR 操作の例を示します。

- 98 ページの「PCI カードスロットを PCI バスに接続する」
- 99 ページの「入出力/デバイスの DR コマンドの状態を表示する」

▼ PCI カードスロットを PCI バスに接続する

1. PCI カードスロットの入出力カード/デバイステーブルを右クリックし、「接続」を選択します。
「接続」ダイアログが表示されます。
2. 「了解」をクリックして PCI カードスロットを接続します。

▼ 入出力/デバイスの DR コマンドの状態を表示する

1. PCI カードスロットの入出力カード/デバイステーブルを右クリックし、「状態の表示」を選択します。
「状態」ダイアログが表示されます。
2. 「了解」をクリックして「状態」ダイアログを閉じます。

参考: 入出力カード/デバイステーブルのメニューオプション

表 5-1 に、入出力カード/デバイステーブルの DR メニューオプションを示します。

表 5-1 入出力カード/デバイステーブルのメニューの DR オプション

メニュー項目	説明
接続	PCI カードスロットを接続します。
接続解除	PCI カードスロットの接続を解除します。
構成	PCI カードを構成します。
構成解除	PCI カードの構成を解除します。
状態の表示	最新の入出力カード/デバイスの DR コマンドの状態を示します。

参考: ドメインの動的再構成のプロパティ

「詳細」ウィンドウの右半分に表示されている動的再構成のデータテーブルを使用して、動的再構成が可能な PCI カードの最後の状態を確認できます。

接続点: 入出力カードとデバイス

接続点は、コンポーネントとそのスロットの総称です。表 5-2 に、PCI カードスロットの情報を示します。

表 5-2 入出力カード/デバイスの接続点のプロパティ

属性	説明
一意の接続点 ID	cfgadm から得られた一意の論理接続点識別子です。 iou#x-pci#y の形式で、x は IOU の番号、y は PCI 番号です。
スロットの状態	スロットが使用可能かどうか。可能な値: assigned、 unassigned
電源状態	電源の状態。可能な値: powered-on または powered-off
ソケット	ソケットの状態。可能な値: connected、 disconnected、empty
占有装置	占有装置の状態。占有装置は、ボードと接続デバイス の組み合わせです。可能な値: configured、 unconfigured
タイプ	タイプ。値の例: pci-pci/hp
条件	コンポーネントの状態。可能な値: ok、unknown、 failed、unusable
情報	io タイプの一般情報。たとえば、 device/pci@23d,700000 referenced。各フィール ドの説明については、Solaris のリファレンスマニユ アルコレクションの cfgadm_sbd(1M) のマニュアルペ ージを参照してください。
構成日時	コンポーネントがドメインに構成された日時。
使用中	y (yes) は、状態、可用性、または状況の変更処理が進 行中であることを示します。n (no) は、状態、可 用性、または状況の変更処理が進行中ではないことを示 します。
物理 ID	物理接続点 ID。 /devices/pci@y,600000:iou#x-pci#y の形式で、 x は IOU の番号、y は PCI 番号です。

アラーム規則

アラームとは、異常なイベントの通知です。Sun Management Center ソフトウェアでは、重要度が異なる複数のアラームを使用してシステムを監視できます。

この章では、Sun SPARC Enterprise Mx000 サーバーに固有のアラーム規則の概要を示します。この章には、次の節があります。

- 102 ページの「アラーム規則について」
- 102 ページの「参考: プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則」
 - 102 ページの「エラー状態規則 (rErrorStatus)」
 - 103 ページの「LED 状態規則 (rLEDState)」
 - 104 ページの「テスト状態規則 (rTestState)」
 - 105 ページの「ドメイン状態規則 (rDomainStatus)」
 - 105 ページの「有効な状態規則 (rValidStatus)」
 - 106 ページの「外部入出力拡張ユニット LED 状態規則 (rIoBoxLEDState)」
 - 107 ページの「リンクカード LED 状態規則 (rLinkCardLEDState)」
 - 107 ページの「取り外し可能 LED 規則 (rOKtoRemoveLED)」
 - 108 ページの「外部入出力拡張ユニットセンサー規則 (rIoBoxSensor)」
- 109 ページの「参考: ドメイン管理モジュールのアラーム規則」
 - 109 ページの「CPU 状態規則 (oplCPUStatus)」
 - 110 ページの「状態チェック規則 (oplStateCheck)」
 - 111 ページの「ディスクエラー数規則 (oplDskErrCnt)」
 - 111 ページの「テープエラー数規則 (oplTpeErrCnt)」

アラームの詳細については、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

アラーム規則について

このアドオンソフトウェアには、システムがさまざまなコンポーネントの状態に対応するために使用する複数のアラーム規則が含まれます。各アラーム規則インスタンスは、プラットフォーム管理モジュール内のテーブルの特定のプロパティに適用します。単一の規則を複数のプロパティやテーブルに適用できます。

アラーム規則は、次の 2 つのソースから主に入力を受け取ります。

- プラットフォーム管理モジュール内のオブジェクトプロパティ
- 規則自体に保存されたデータ

Sun Management Center コンソールを使用して、規則の状態や状態の移行に対して処理を割り当てることができます。詳細は、『Sun Management Center Software ユーザーガイド』を参照してください。

参考: プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則

この節では、プラットフォーム管理モジュールで監視されるプロパティのアラーム規則を示します。

各項の最初の表は、次の情報を示します。

- 規則を適用するテーブル
- 各テーブルで、規則によって読み取られるプロパティ

これらのアラーム規則は、第 3 章にあるプラットフォーム管理モジュールのプロパティの表にも示しています。

各項の 2 番目の表は、監視対象プロパティの次の値を示します。

- 関連付けられているアラームレベル
- 関連付けられているアラームの色
- 推奨される処理

エラー状態規則 (rErrorStatus)

エラー状態規則が制御するアラームは、システムまたはシステムのコンポーネントの状態の変化を警告します。

表 6-1 エラー状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
システム	システム状態、ファームウェア状態、ハードウェア状態
CMU ボード	エラー状態
CPU モジュール	エラー状態
メモリーボード	エラー状態
メモリー DIMM	エラー状態
IOU ボード	エラー状態
PCI スロット	エラー状態
システムボード	CMU エラー状態、IOU エラー状態
XSB	エラー状態
システムコンポーネント	エラー状態
環境監視	値の状態
ドメイン	エラー状態

表 6-2 エラー状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
NORMAL	アラームなし	OK
WARNING	警告	黄
ALARM	エラー	赤
CHANGE	アラームなし	OK
NOTICE	情報	青
UNKNOWN	情報	青

LED 状態規則 (rLEDState)

LED 状態規則が制御するアラームは、システムの保守が必要になった可能性があるときに警告します。

表 6-3 LED 状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
システム	検査 LED

表 6-4 LED 状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
ON	エラー	赤
OFF	アラームなし	OK
BLINKING	情報	青
UNKNOWN	情報	青

テスト状態規則 (rTestState)

テスト状態規則が制御するアラームは、拡張システムボード (XSB) のテストの状態が PASSED または UNMOUNTED のどちらでもない場合に警告します。

表 6-5 テスト状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
XSB	テスト

表 6-6 テスト状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
PASSED	アラームなし	OK
FAILED	エラー	赤
UNKNOWN	情報	青
UNMOUNTED	アラームなし	OK
TESTING	情報	青

ドメイン状態規則 (rDomainStatus)

ドメイン状態規則が制御するアラームは、ドメインの状態が PANIC または UNKNOWN の場合に警告します。

表 6-7 ドメイン状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
ドメイン	状態

表 6-8 ドメイン状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
POWER OFF	アラームなし	OK
PANIC	エラー	赤
SHUTDOWN	アラームなし	OK
INITIALIZE	アラームなし	OK
BOOT	アラームなし	OK
RUNNING	アラームなし	OK
PROM	アラームなし	OK
CHANGE	アラームなし	OK
UNKNOWN	警告	黄

有効な状態規則 (rValidStatus)

有効な状態規則が制御するアラームは、環境プローブの状態が VALID ではない場合に警告します。

表 6-9 有効な状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
環境監視	状態

表 6-10 有効な状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
INVALID	警告	黄
VALID	アラームなし	OK
UNKNOWN	情報	青

外部入出力拡張ユニット LED 状態規則 (rIoBoxLEDState)

外部入出力拡張ユニット LED 状態規則が制御するアラームは、外部入出力に関連して、注意を要する問題がある、または保守が必要である可能性があることを LED が示しているときに警告します。

表 6-11 外部入出力拡張ユニット LED 状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
入出力ボックスシャーシ	温度超過 LED、保守要求 LED
IO ボード	保守要求 LED
入出力ボックス電源装置 とファン	保守要求 LED

表 6-12 外部入出力拡張ユニット LED 状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
OFF	アラームなし	OK
STANDBY BLINK	アラームなし	OK
BLINK SLOW	警告	黄
BLINK FAST	アラームなし	OK
FEEDBACK FLASH	アラームなし	OK
ON	エラー	赤
UNKNOWN	警告	黄

リンクカード LED 状態規則 (rLinkCardLEDState)

リンクカード LED 状態規則が制御するアラームは、外部入出力に関連して、注意を要する問題がある、または保守が必要である可能性があることを LED が示しているときに警告します。

表 6-13 リンクカード LED 状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
リンクカード	データ LED、管理 LED

表 6-14 リンクカード LED 状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
OFF	エラー	赤
STANDBY BLINK	アラームなし	OK
BLINK SLOW	警告	黄
BLINK FAST	アラームなし	OK
FEEDBACK FLASH	アラームなし	OK
ON	アラームなし	OK
UNKNOWN	警告	黄

取り外し可能 LED 規則 (rOKtoRemoveLED)

取り外し可能 LED 規則が制御するアラームは、「取り外し可能 LED」プロパティが ON または UNKNOWN の場合に警告します。

表 6-15 取り外し可能 LED 規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
IO ボート	取り外し可能 LED

表 6-16 取り外し可能 LED 規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
OFF	アラームなし	OK
STANDBY BLINK	アラームなし	OK
BLINK SLOW	アラームなし	OK
BLINK FAST	アラームなし	OK
FEEDBACK FLASH	アラームなし	OK
ON	情報	青
UNKNOWN	警告	黄

外部入出力拡張ユニットセンサー規則 (rIoBoxSensor)

外部入出力拡張ユニットセンサー規則が制御するアラームは、しきい値と等しい環境値、最大しきい値を超える環境値、または最小しきい値に満たない環境値が検出されたときに警告します。

表 6-17 外部入出力拡張ユニットセンサー規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
入出力ボックスセンサー	値

表 6-18 外部入出力拡張ユニットセンサー規則のプロパティ値

センサー値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
> 最小しきい値	アラームなし	OK
< 最大しきい値	アラームなし	OK
= 最小しきい値	警告	黄

表 6-18 外部入出力拡張ユニットセンサー規則のプロパティ値 (続き)

センサー値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
= 最大しきい値	警告	黄
< 最小しきい値	エラー	赤
> 最大しきい値	エラー	赤

参考: ドメイン管理モジュールのアラーム規則

この節では、ドメイン管理モジュールで監視されるプロパティのアラーム規則を示します。

各項の最初の表は、次の情報を示します。

- 規則を適用するテーブル
- 各テーブルで、規則によって読み取られるプロパティ

これらのアラーム規則は、第 4 章にあるドメイン管理モジュールのプロパティの表にも示しています。

各項の 2 番目の表は、監視対象プロパティの次の値を示します。

- 関連付けられているアラームレベル
- 関連付けられているアラームの色
- 推奨される処理

CPU 状態規則 (oplCPUStatus)

CPU 状態規則が制御するアラームは、CPU の状態の変化を警告します。プロセッサが OFFLINE の場合は注意アラームが発生します。

表 6-19 CPU 状態規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
プロセッサ	主要な状態

表 6-20 CPU 状態規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
ONLINE	アラームなし	OK
OFFLINE	注意	青
POWEROFF	アラームなし	OK
UNKNOWN	アラームなし	OK

状態チェック規則 (oplStateCheck)

状態チェック規則が制御するアラームは、メモリーコントローラの CS 状態が変化したときに警告します。状態が OKAY ではない場合は注意アラームが発生します。

表 6-21 状態チェック規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
メモリーコントローラ	CS0 状態、CS1 状態

表 6-22 状態チェック規則のプロパティ値

プロパティ値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
UNKNOWN	注意	青
OKAY	アラームなし	OK
DISABLED	注意	青
UNDEFINED	注意	青
MISCONFIGURED	注意	青
FAIL-OBP	注意	青
FAIL	注意	青
BLACKLISTED	注意	青
REDLISTED	注意	青
--	注意	青

ディスクエラー数規則 (oplDskErrCnt)

ディスクエラー数規則が制御するアラームは、エラー数のしきい値を超えたときに警告します。

表 6-23 ディスクエラー数規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
ディスクデバイス	ハードウェアエラー、ソフトウェアエラー、トランスポートエラー

表 6-24 ディスクエラー数規則のプロパティ値

エラー数しきい値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
5	情報	青
10	警告	黄
15	エラー	赤

テープエラー数規則 (oplTpeErrCnt)

テープエラー数規則が制御するアラームは、エラー数のしきい値を超えたときに警告します。

表 6-25 テープエラー数規則のテーブルとプロパティ

適用可能なテーブル	読み取られるプロパティ
テープデバイス	テープエラー数

表 6-26 テープエラー数規則のプロパティ値

エラー数しきい値	アラームレベル (該当する場合)	意味/色
10	情報	青
20	警告	黄
30	エラー	赤

索引

A

addboard(8), 68
addfru(8), 60, 64, 66
adduser(8), 21
ANYGROUP (管理グループ名), 40

C

cfgadm(1M), 51, 54, 55, 97, 100
cfgadm_sbd(1M), 100
CLI。「コマンド行インタフェース」を参照。
CPU
CPU 状態アラーム規則, 109 ~ 110
CPU ストランド, 72
CPU チップ, 58, 60, 72

D

deleteboard(8), 54, 55, 68
deletefru(8), 60, 64, 66
DR。「動的再構成」を参照。

E

esadm (管理グループ名), 40
esdomadm (管理グループ名), 40
es-guiinst, 16
es-guisetup, 18

es-guistart, 11
es-guistop, 11
es-inst, 8
esops (管理グループ名), 40
es-setup, 8, 25, 26 ~ 27
es-start, 11, 21 ~ 23
es-stop, 11, 23 ~ 24, 26
es-uninst, 28 ~ 30
esusers ファイル, 40

F

fieldeng (XSCF 権限), 21, 53, 60, 64, 66

G

groupadd, 20

I

ioxadm(8), 74, 76, 78
IP アドレス
setsunmc コマンドで指定, 34
サービスプロセッサのフェイルオーバー, 10
ネットワークインタフェース, 95
変更後の再構成, 25

L

LED 状態アラーム規則, 103 ~ 104

M

man(1), 32

moveboard(8), 69

O

oplCPUStatus (アラーム規則), 109 ~ 110

oplDskErrCnt (アラーム規則), 111

oplStateCheck (アラーム規則), 110

oplTpeErrCnt (アラーム規則), 111

P

password(8), 21

platadmn (管理グループ名), 20

platadm (XSCF 権限), 21

platop (管理グループ名), 20

poweroff(8), 73, 80

poweron(8), 73, 80

R

rDomainStatus (アラーム規則), 105

replacefru(8), 60, 64, 66

rErrorStatus (アラーム規則), 102 ~ 103

reset(8), 73, 80

rIoBoxLEDState (アラーム規則), 106

rIoBoxSensor (アラーム規則), 108 ~ 109

rLEDState (アラーム規則), 103 ~ 104

rLinkCardLEDState (アラーム規則), 107

rOKtoRemoveLED (アラーム規則), 107 ~ 108

rTestState (アラーム規則), 104

rValidStatus (アラーム規則), 105 ~ 106

S

setdcl(8), 73

setnetwork(8), 10

setprivileges(8), 21, 53

setroute(8), 10

setsnmp(8), 22

setsunmc(8), 17, 19, 22, 24, 26, 27

マニュアルページ, 33 ~ 35

setupfru(8), 66

setup-responses-file, 17

showsunmc(8)

マニュアルページ, 35 ~ 38

Simple Network Management Protocol。

「SNMP」を参照。

SNMP

エージェント, 22, 39

検出マネージャーのコミュニティー文字列, 10

ドメインのセットアップ時のコミュニティー文字列, 17

SUNW。「パッケージ名」を参照。

T

testsb(8), 66

U

useradm (XSCF 権限), 21

X

XSCF 権限

fieldeng, 21, 53, 60, 64, 66

platadm, 21

useradm, 21

XSCF コマンド

addboard(8), 68

addfru(8), 60, 64, 66

adduser(8), 21

deleteboard(8), 54, 55, 68

deletefru(8), 60, 64, 66

ioxadm(8), 74, 76, 78

man(1), 32
moveboard(8), 69
password(8), 21
poweroff(8), 73, 80
poweron(8), 73, 80
replacefru(8), 60, 64, 66
reset(8), 73, 80
setdcl(8), 73
setnetwork(8), 10
setprivileges(8), 21, 53
setroute(8), 10
setsnmp(8), 22
setsunmc(8), 17, 19, 22, 24, 26, 27
 マニュアルページ, 33 ~ 35
setupfru(8), 66
showsunmc(8)
 マニュアルページ, 35 ~ 38
testsb(8), 66

あ

アラーム規則

ドメイン管理, 109 ~ 111
 oplCPUStatus, 109 ~ 110
 oplDskErrCnt, 111
 oplStateCheck, 110
 oplTpeErrCnt, 111
プラットフォーム管理, 102 ~ 109
 rDomainStatus, 105
 rErrorStatus, 102 ~ 103
 rIoBoxLEDState, 106
 rIoBoxSensor, 108 ~ 109
 rLEDState, 103 ~ 104
 rLinkCardLEDState, 107
 rOKtoRemoveLED, 107 ~ 108
 rTestState, 104
 rValidStatus, 105 ~ 106

い

イベントマネージャー, 39

インストール

アドオンソフトウェア, 13
コアソフトウェア, 12
スクリプト, 9

え

エージェント, 15
 SNMP, 22, 39
 旧リリース, 9
 コアエージェントレイヤー, 13
 サーバー, 2, 15
 再起動, 22
 停止, 23 ~ 24
 デフォルトのポート, 39
 ドメイン, 15, 22, 39
 プラットフォーム, 2 ~ 4, 14
 モジュール, 6
エージェントアップデート, 15
エラー状態アラーム規則, 102 ~ 103

か

外部入出力拡張ユニット, 73 ~ 79
 LED 状態アラーム規則, 106
 センサーアラーム規則, 108 ~ 109
管理者、ドメインとプラットフォーム, 2

く

グループ名

ANYGROUP, 40
esadm, 40
esdomadm, 40
esops, 40
platadmn, 20
platop, 20

け

検出マネージャー, 10
 ポート設定, 9

こ

構成サーバー, 39
コマンド行インタフェース (CLI), 8, 11, 21 ~ 24, 28
 ~ 32

- es-inst, 8
- es-setup, 8, 25, 26 ~ 27
- es-start, 11, 21 ~ 23
- es-stop, 11, 23 ~ 24, 26
- es-uninst, 28 ~ 30

コミュニティ文字列

- 検出マネージャーのデフォルトの変更, 10
- ドメインのセットアップ時に変更, 17

コンソール

- コンソールレイヤーのソフトウェア, 14, 15
- サービスプロセッサ, 2
- 終了, 24

さ

サーバー

- エージェント, 2
- 停止, 23 ~ 24
- サーバーレイヤーのソフトウェア, 13, 15
- イベントマネージャー, 39
- 構成サーバー, 39
- デフォルトのポート, 39
- トラップハンドラ, 39
- メタデータ, 39

サービスプロセッサ, 2, 3

- SNMP エージェント, 22
- エージェントソフトウェア, 15, 17, 19, 22
- ポート, 39
- コンソール, 2
- フェイルオーバーについて, 10
- プリインストールされたソフトウェア, 8

サポートされているハードウェアプラットフォーム, 1

し

「詳細」ウィンドウ

- ドメイン, 4, 5
- プラットフォーム, 4

状態チェックアラーム規則, 110

衝突

- ネットワークポートの構成について, 9
- ネットワークポートの構成の参考情報, 39

せ

セットアップパラメータの再構成, 25 ~ 27

前提条件, 9

そ

ソフトウェア

- インストール
- アドオンソフトウェア, 13
- コアソフトウェア
- インストール, 12
- サービスプロセッサにプリインストール, 8
- セットアップ
- スクリプト, 9

て

ディスクエラー数アラーム規則, 111

テープエラー数アラーム規則, 111

テスト状態アラーム規則, 104

と

動的再構成 (DR), 5, 97 ~ 100

- インストール, 14
- ドメイン動的再構成パッケージ, 39
- ドメイン動的再構成モジュール, 6

ドメイン

- エージェントソフトウェア, 15, 22, 39
- 管理者, 2
- 管理ドメイン, 5
- 検出マネージャーを使用した生成, 10
- セットアップ
- コミュニティ文字列の変更, 17
- ドメイン管理パッケージ, 38
- ドメイン管理モジュール, 6
- ドメイン状態アラーム規則, 105
- ドメインの「詳細」ウィンドウ, 4, 5
- ハードウェア, 5
- 最小/最大, 2

トラップハンドラ, 39

取り外し可能 LED アラーム規則, 107 ~ 108

に

入出力ポート, 75 ~ 78
電源切断, 51 ~ 52

ね

ネットワークポートの構成
参考, 39
説明, 9

は

「ハードウェア」タブ, 83
ハードウェアドメイン
最小/最大, 2
ハイエンドサーバー, 1
パッケージ名, 38 ~ 39

ひ

表示
ドメイン管理表示, 3
物理表示, 83 ~ 84
プラットフォーム管理表示, 3
論理表示, 83 ~ 85

ふ

フェイルオーバー、サービスプロセッサ, 10
物理表示, 83, 84
プラットフォーム, 5
エージェント, 2 ~ 4, 14
エージェントレイヤーのソフトウェア, 14, 15
管理者, 2
サポート, 1
ハイエンドサーバー, 1
プラットフォーム管理パッケージ, 38
プラットフォーム管理モジュール, 6
プラットフォームの「詳細」ウィンドウ, 4
ミッドレンジサーバー, 1

へ

ヘルプ
インストール, 14

ほ

ポート
構成の変更後の再構成, 25
ネットワークポートの構成について, 9
ネットワークポートの構成の参考情報, 39

ま

マニュアルページ
setsunmc(8), 33 ~ 35
showsunmc(8), 35 ~ 38

み

ミッドレンジサーバー, 1

め

メタデータコンポーネント, 39

も

モジュール
一覧, 6
ドメイン DR, 97 ~ 98
ドメイン管理, 87 ~ 88
プラットフォーム管理, 27, 42 ~ 44

ゆ

有効な状態アラーム規則, 105 ~ 106

よ

要件, 9

り

リンクカード LED 状態アラーム規則, 107

ろ

論理表示, 83, 85

わ

ワークステーション。「コンソール」を参照。